



令和4年3月2日

第24回新型コロナウイルス対策会議

最近の医療ひっ迫の状況と オミクロン株の特性について

令和4年3月2日

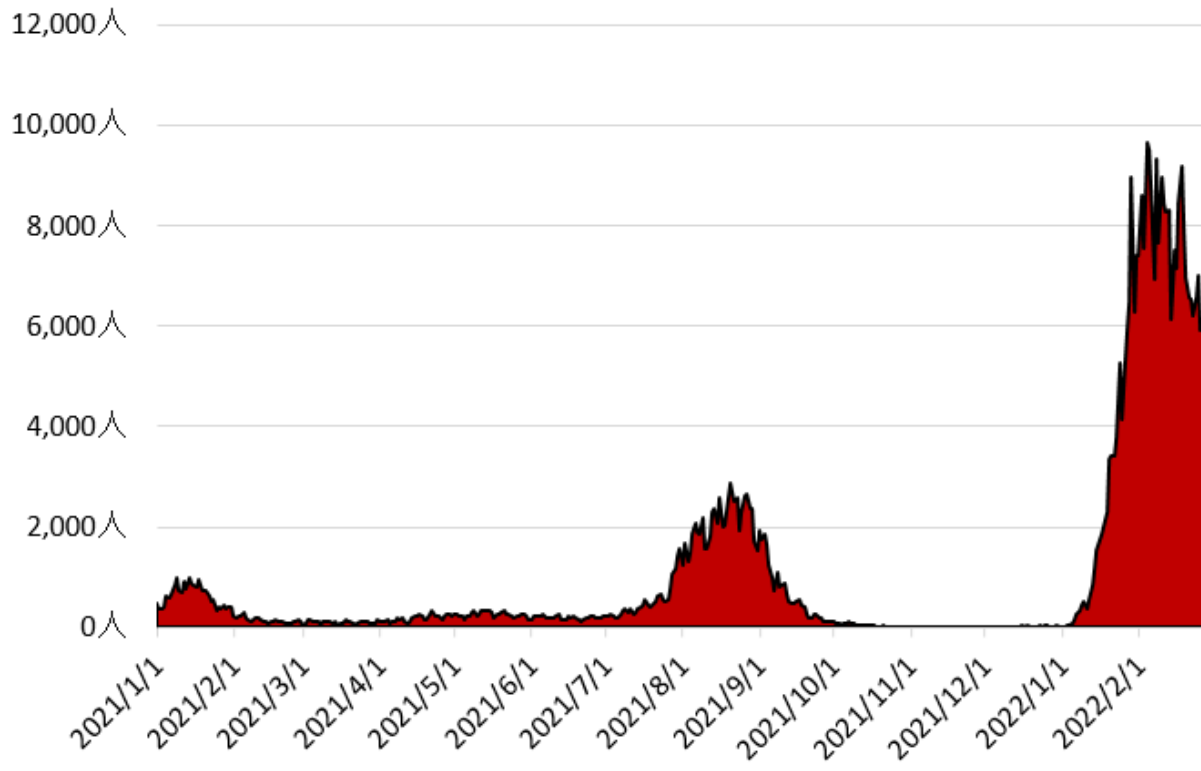
神奈川県顧問／済生会横浜市東部病院副院長

山崎 元靖

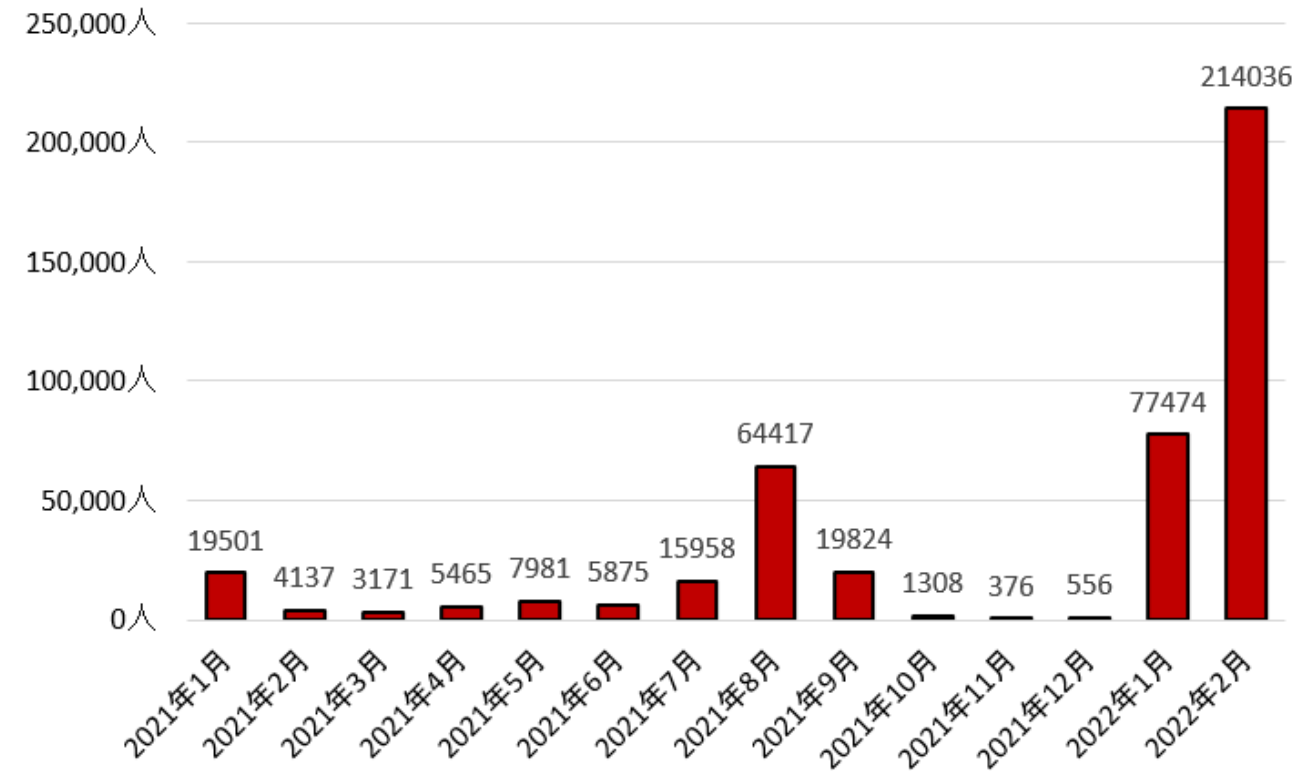
○ 新規発生患者数は、令和4年1月から急激に増加し、日別・月別ともに第5波の8月を上回り過去最多を更新した。

※令和4年1月29日以降は自主療養者数を含む

■(グラフ1)新規発生患者数の推移(日別) 令和4年2月28日現在

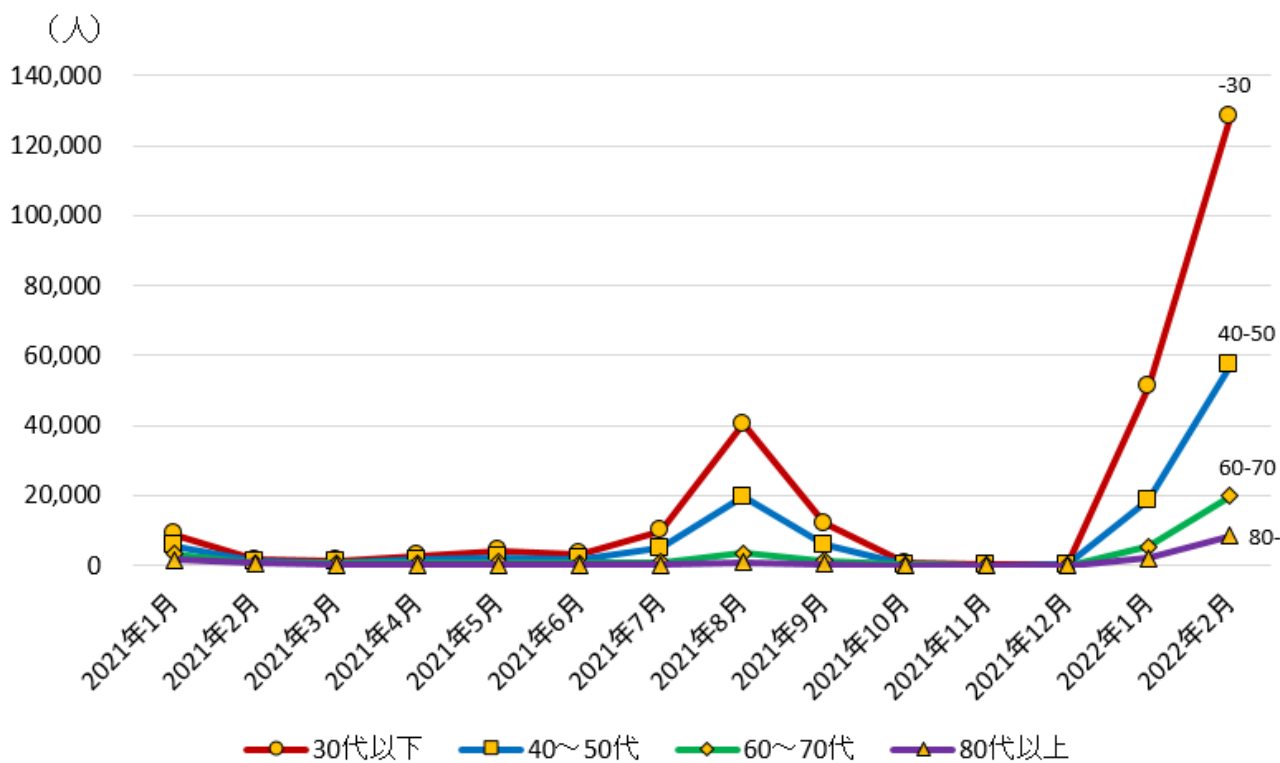


■(グラフ2)新規発生患者数の推移(月別)

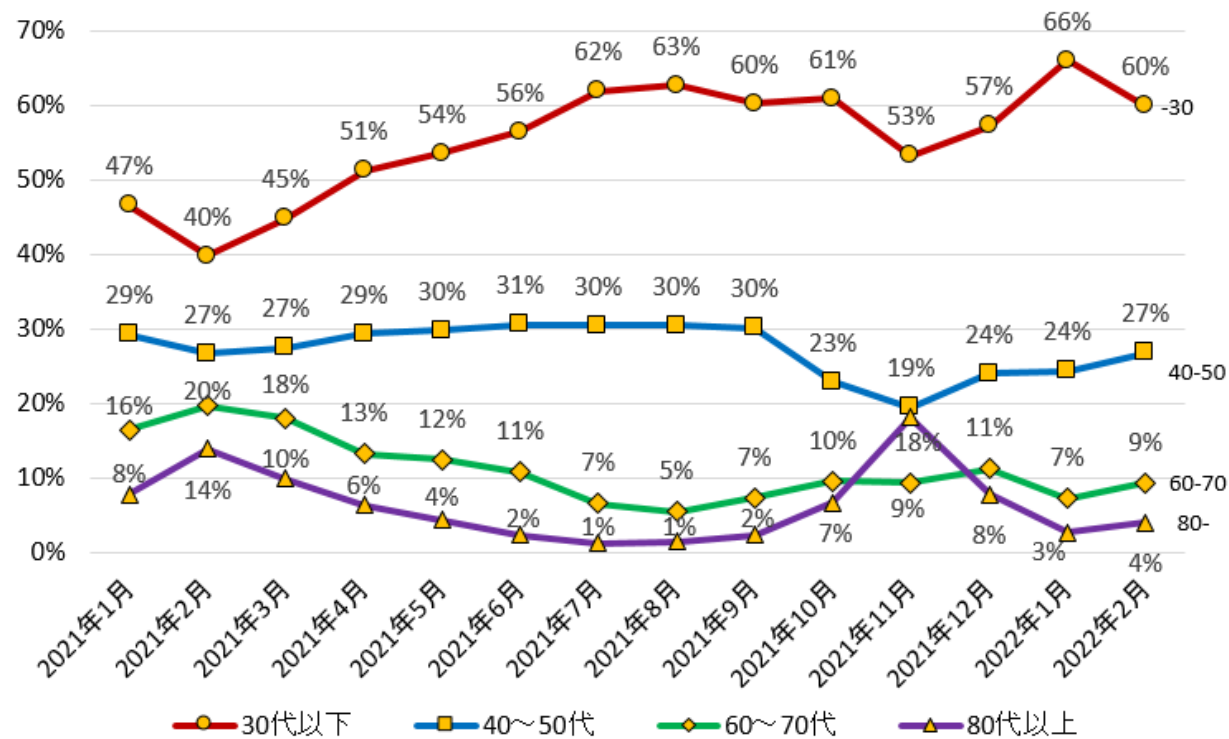


○ 新規発生患者の年代構成では、11月以降、30代以下の割合が増加した一方、80代以上の割合が低下に転じた。

■ (グラフ3) 新規発生患者の年代構成(実数)

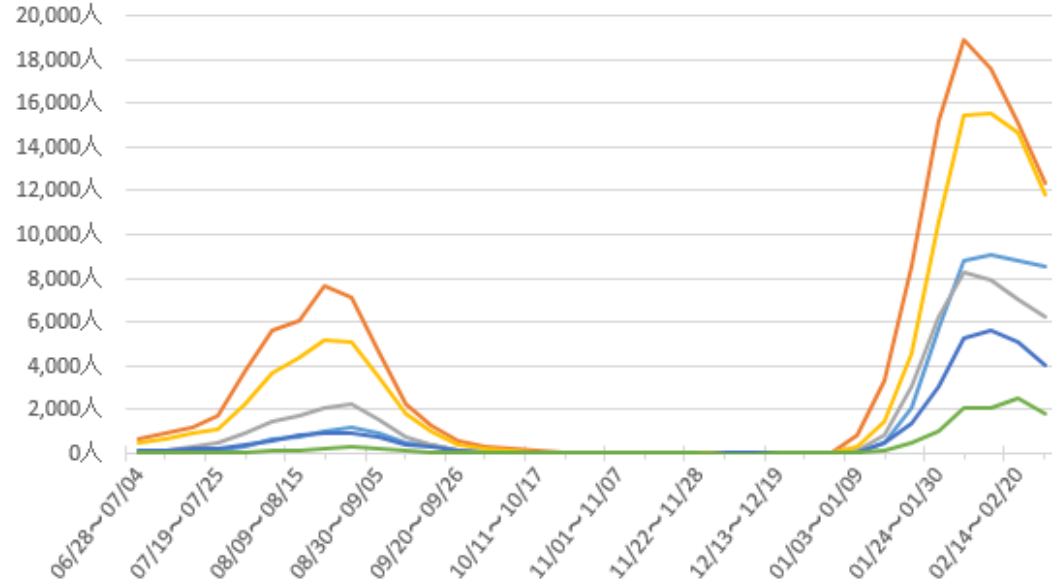


■ (グラフ4) 新規発生患者の年代構成(割合)

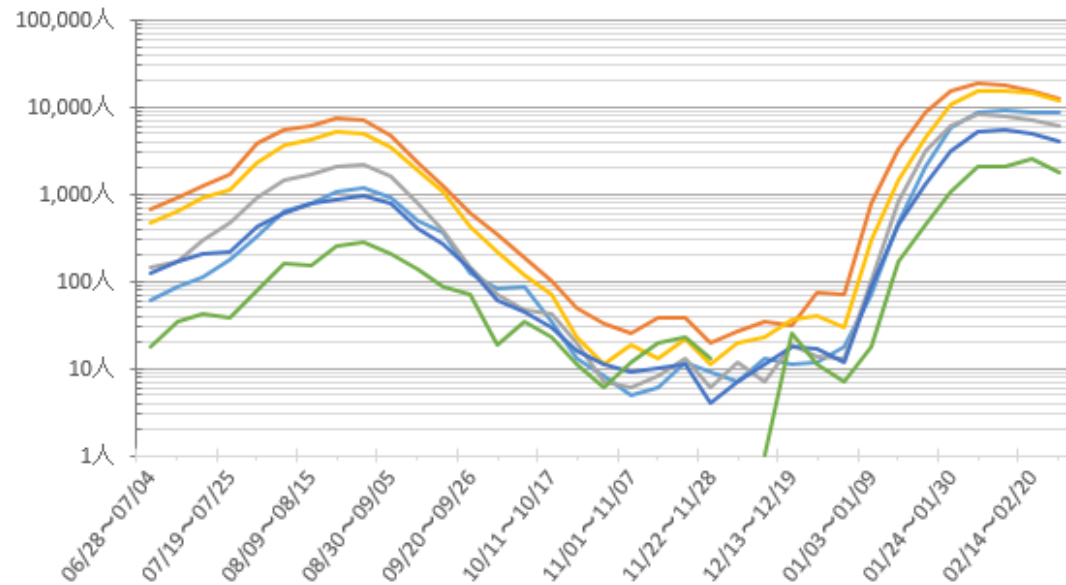


年代別感染者の推移（週別）

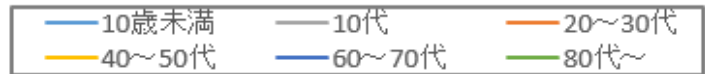
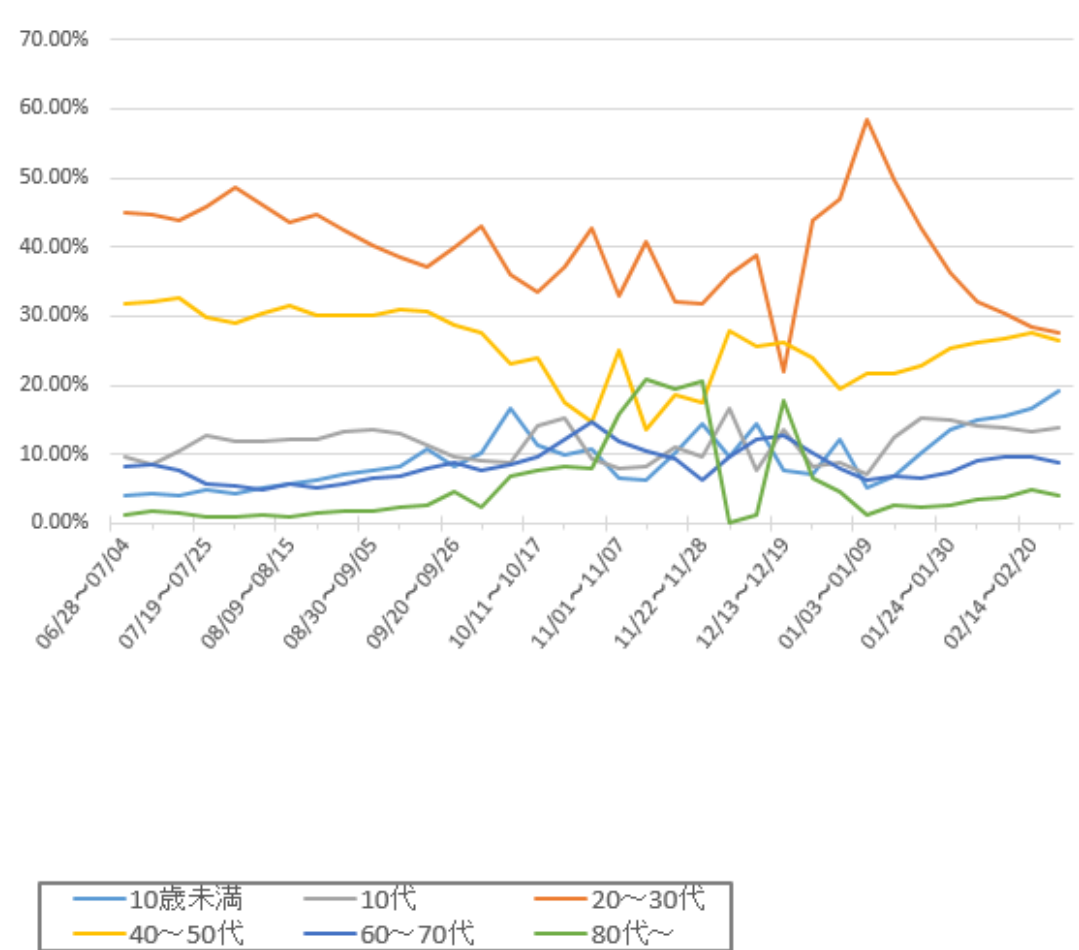
■ 実数ベース



■ 実数ベース（対数スケール版）



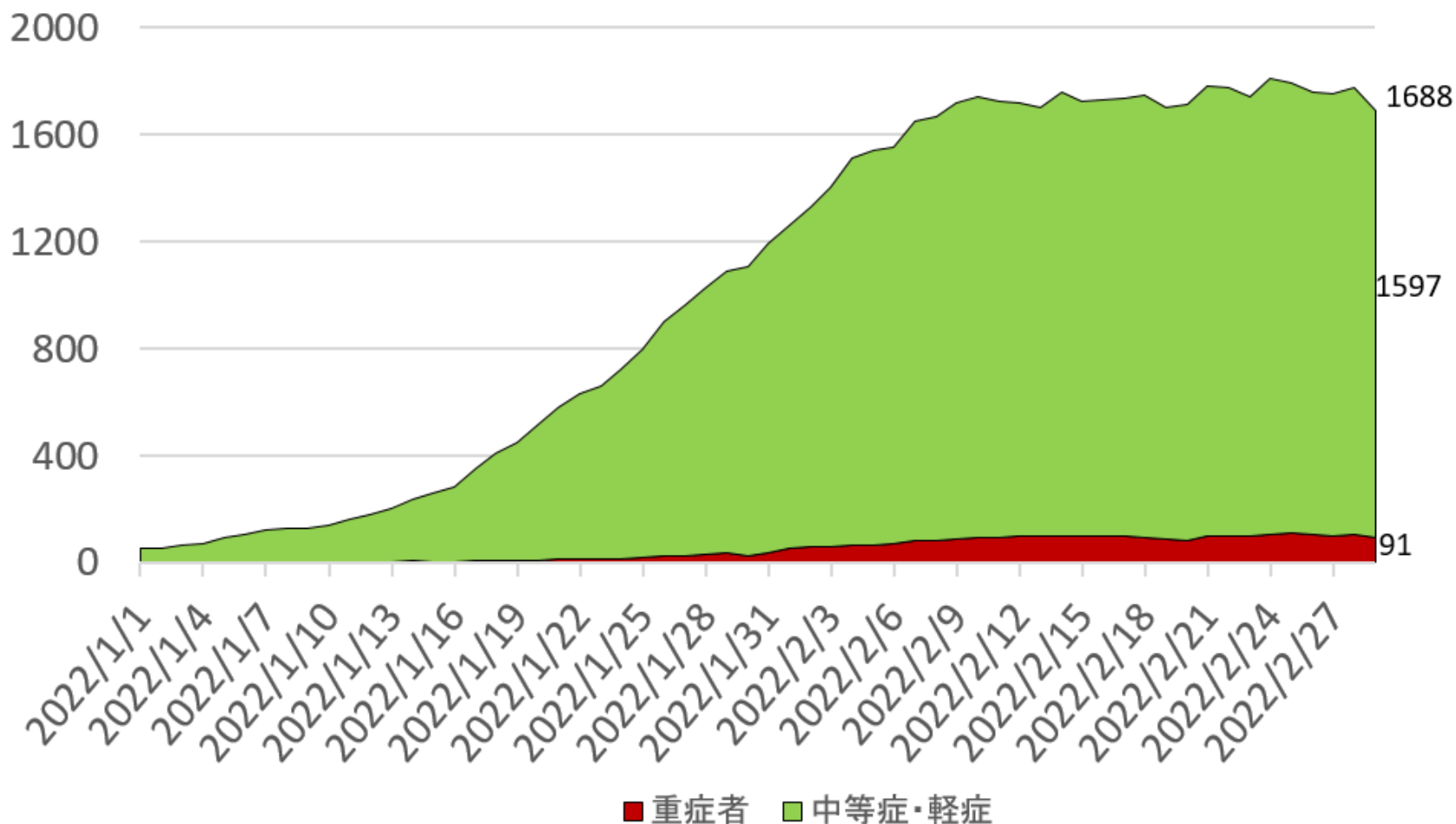
■ 割合ベース



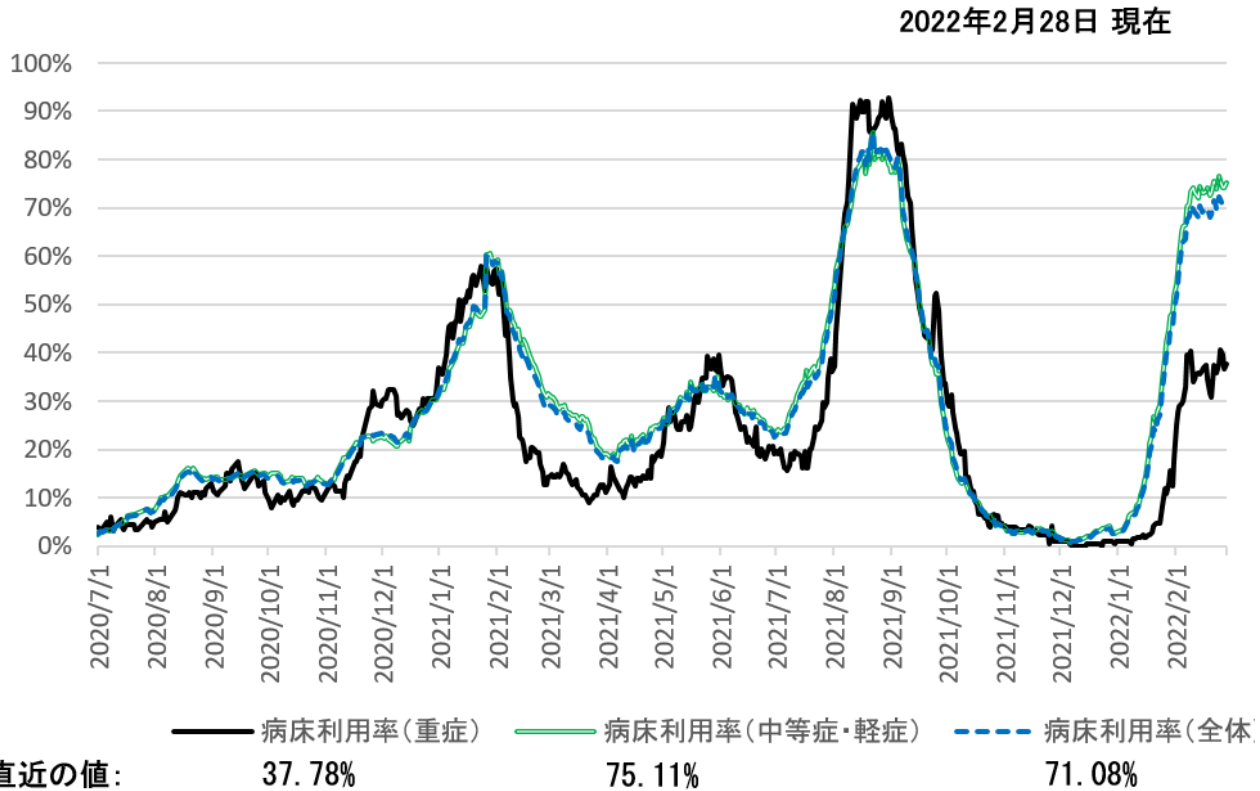
COVID-19入院者数の推移

○ 令和4年2月9日に、入院者数が1700人を超えた後は横ばいが継続しているが、3月1日(火)には前日比△89人となった。

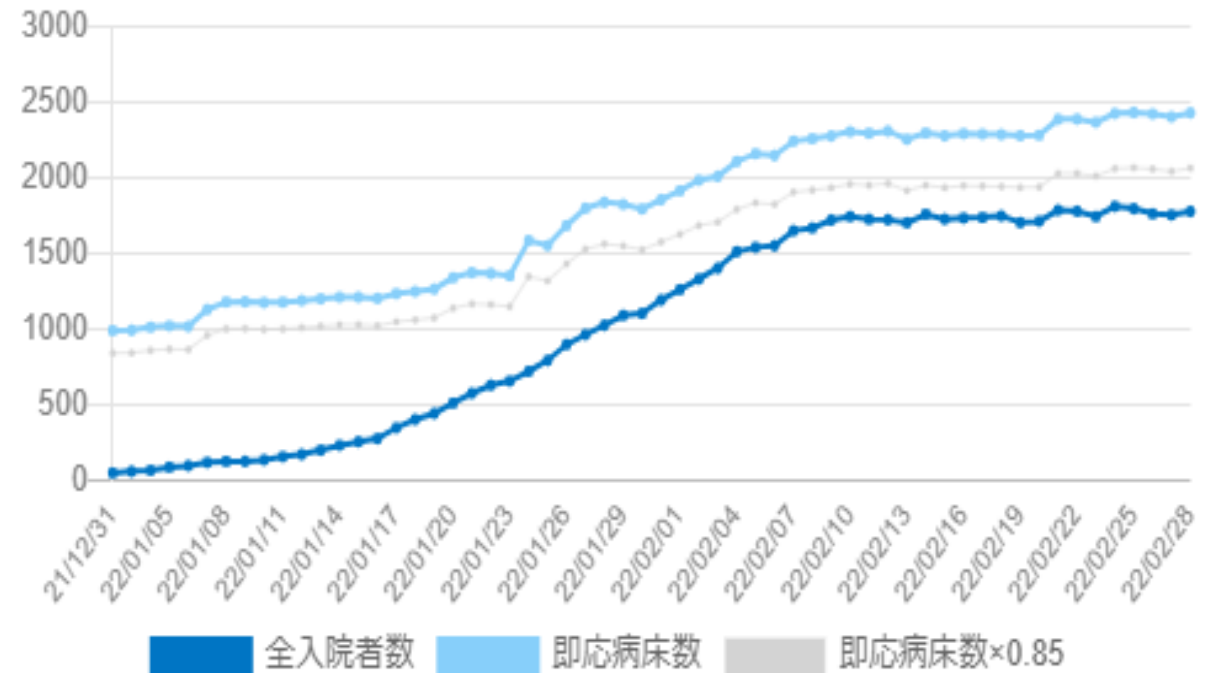
<2月28日 コロナ重症者 102人 中等症・軽症患者 1,675 合計 1,777人>



■ 病床利用率の推移



■ 即応病床の推移



入院者数 + 空床数 + 準備病床数 = 最大確保病床数 (全体: 2,500床、重症: 210床+60床、中等症・軽症: 1,890床+340床)

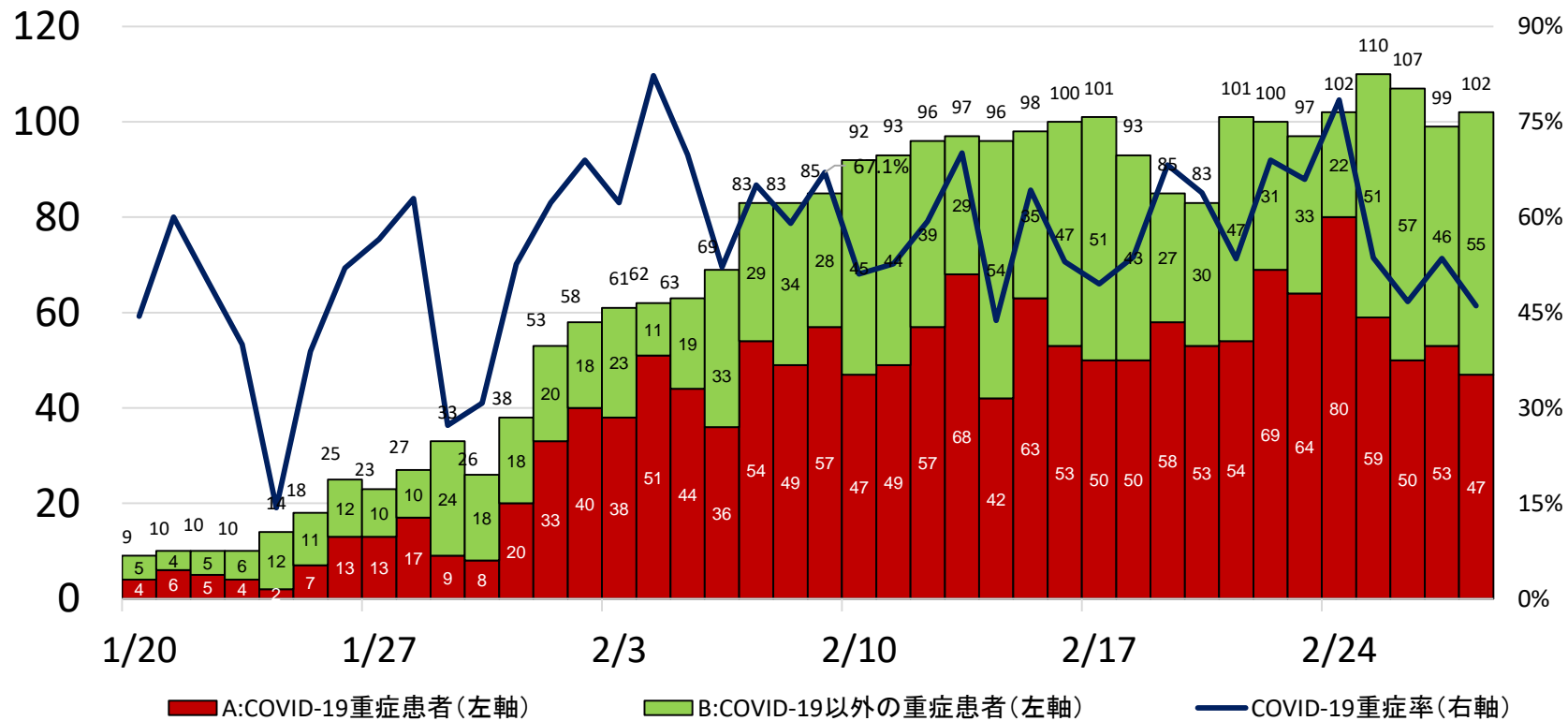
※病床利用率は、最終的な確保病床に対する現在の入院者数で計算。

コロナ用の重症病床に入院中の患者数について

- コロナ用の重症病床(ICU・HCU等)に入院している患者(A)のうち、①コロナが重症のコロナ患者(B)、②コロナ以外の疾患が重症のコロナ患者(C)の推移は以下の表のとおりである。

2月28日 コロナ用の重症病床 入院者:102人 うち、コロナ重症:47人(重症率46.0%)

◇コロナ用の重症病床に入院中の患者の内訳とコロナ重症率

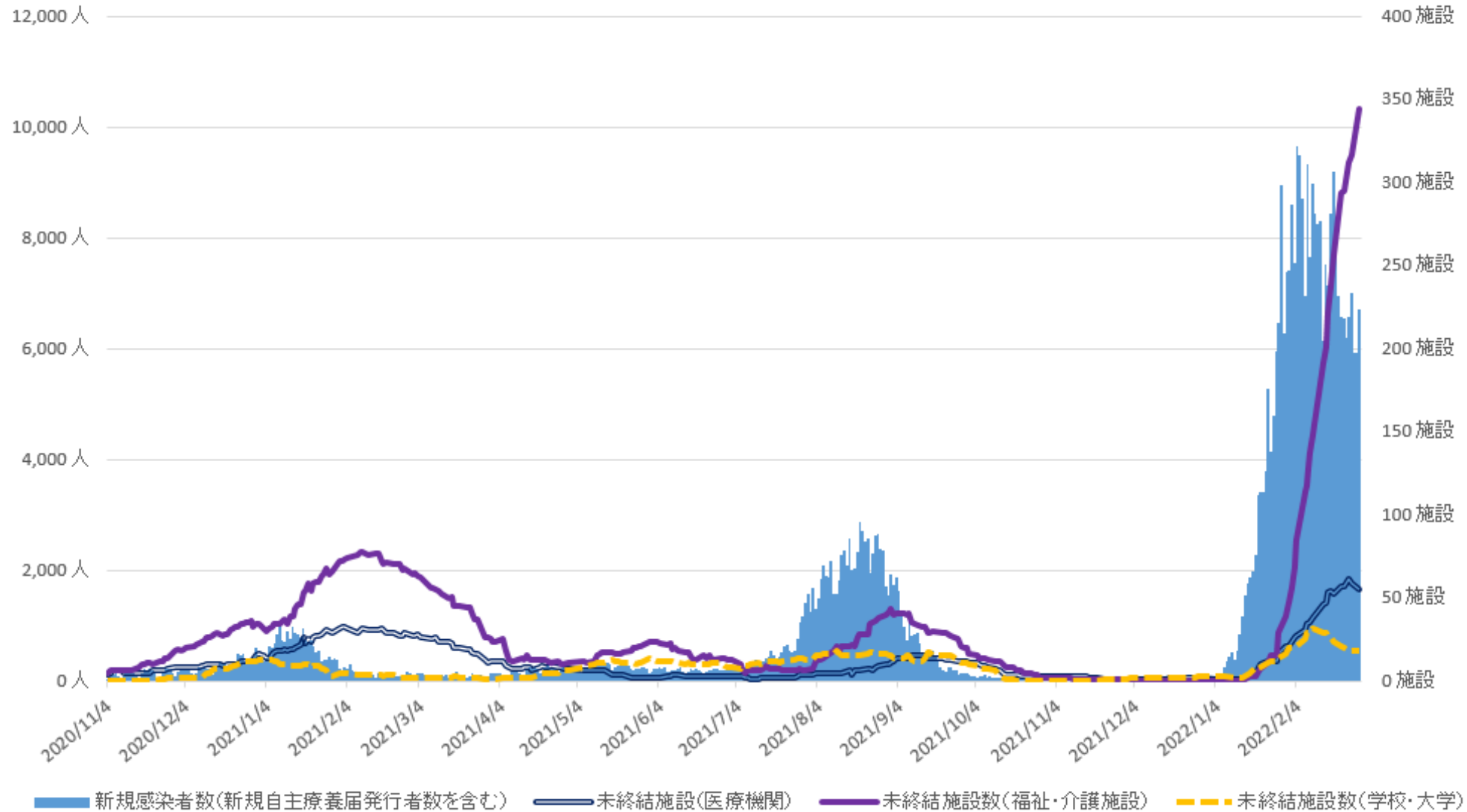


○ $A = B + C$
 ○ 「COVID-19重症率」 = B/A

(出典)kintone日次報告

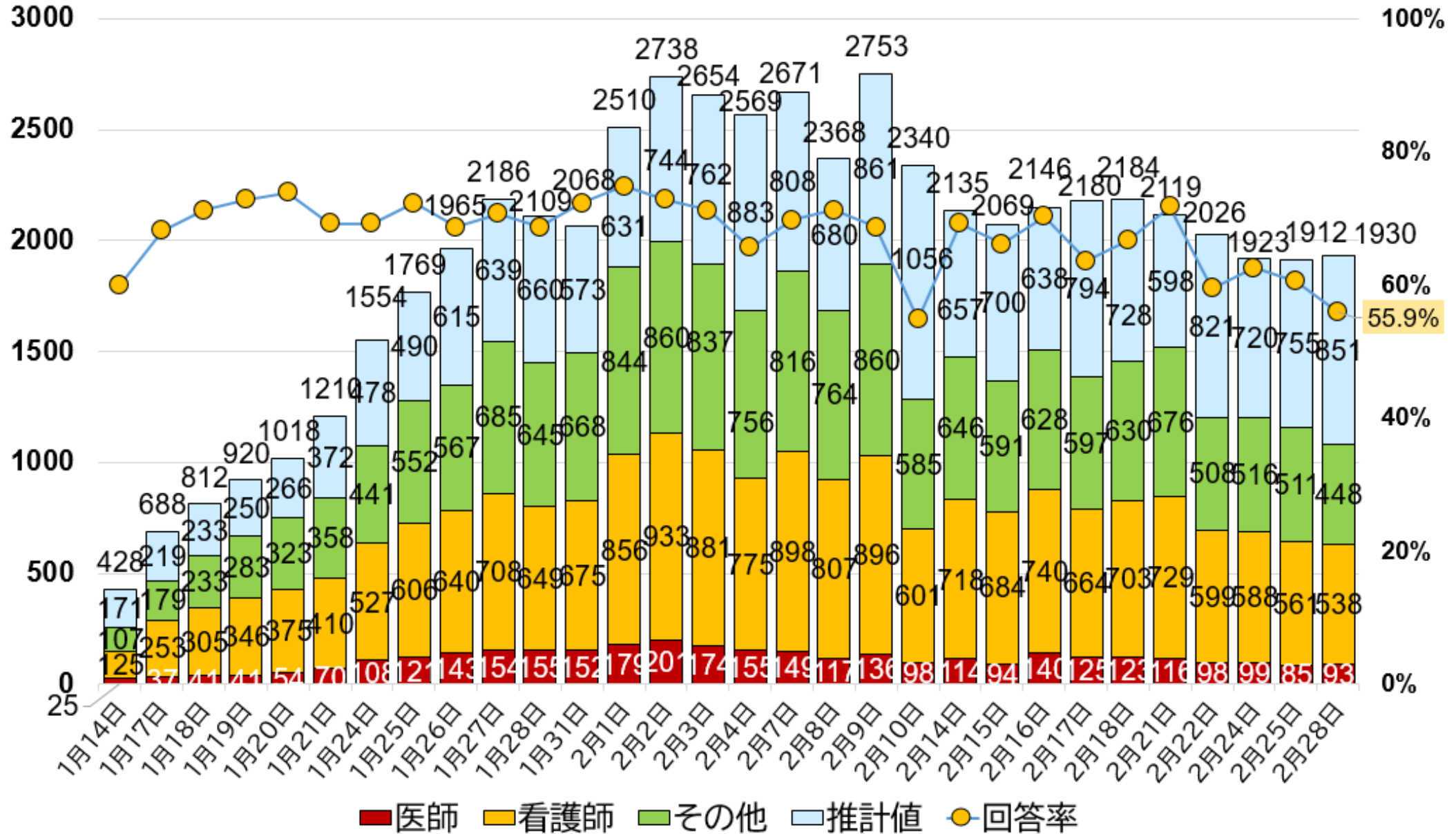
新規陽性患者数とクラスター未終結施設数

新規感染者数(自主療養届発行者数を含む)とクラスター未終結施設数



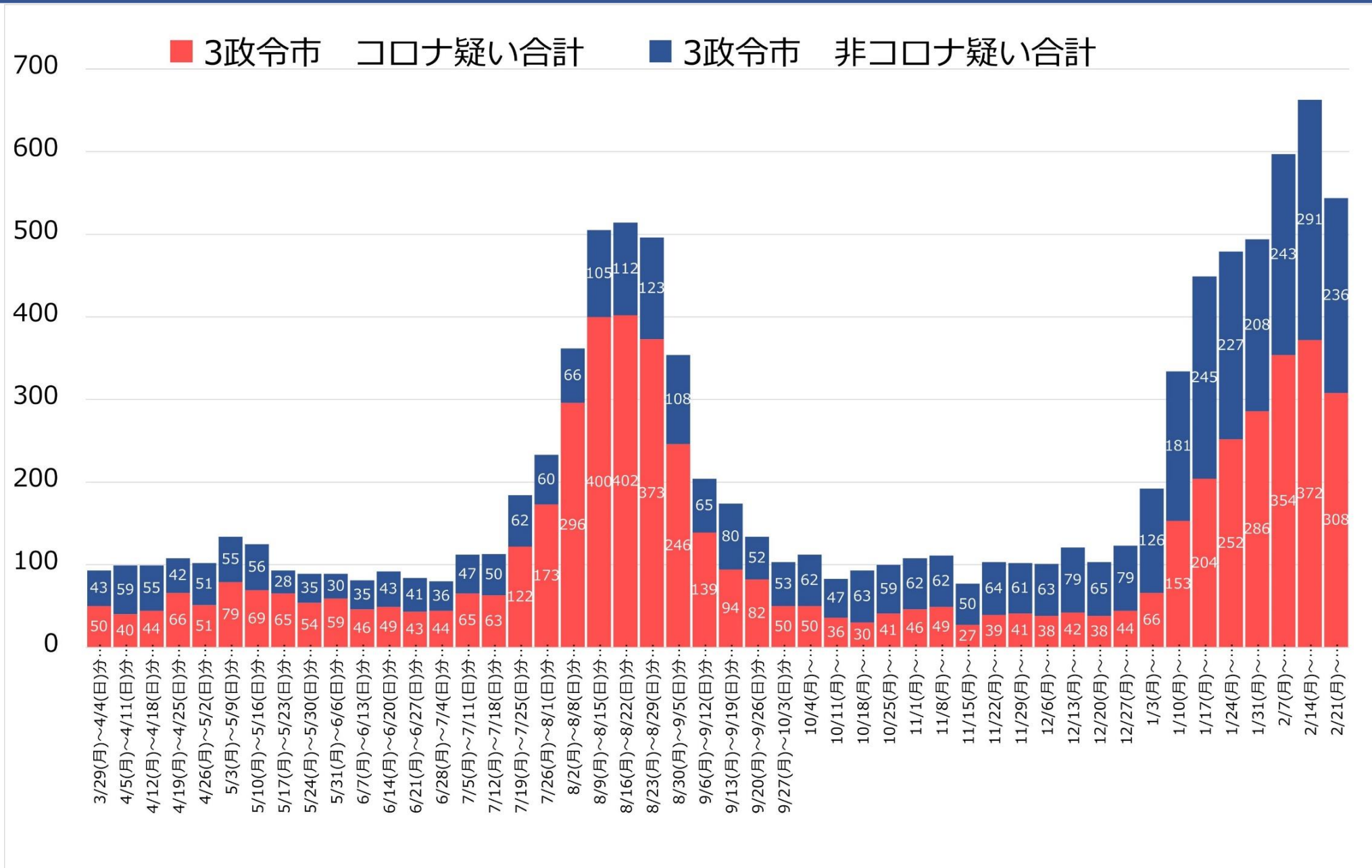
2022年2月28日 現在

「医療従事者の出勤停止状況調査」



（推計値は、出勤停止の医療従事者数の合計を回答率で割って算出）

搬送困難事案件数





取扱注意
(外部提供不可)

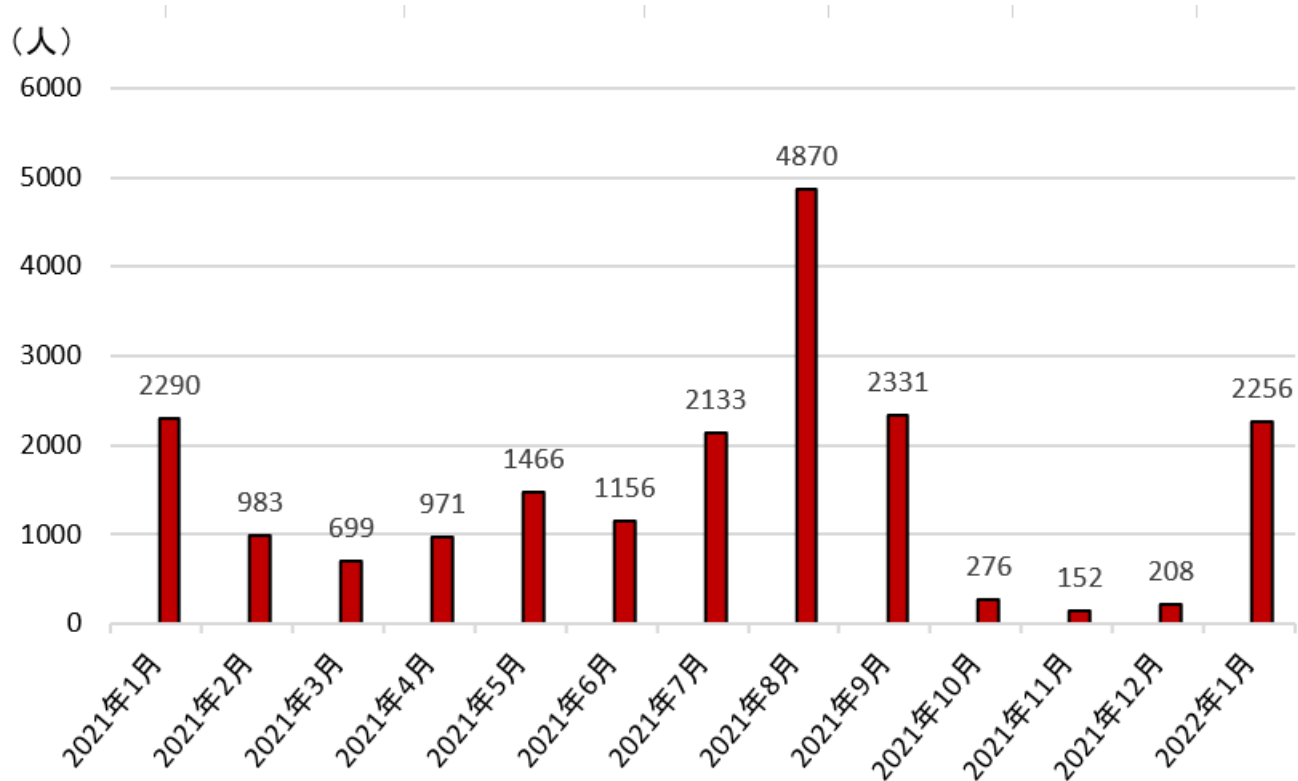
「COVID-19入院者傾向調査」 結果分析（令和4年1月分）

神奈川県 健康医療局

令和4年3月2日

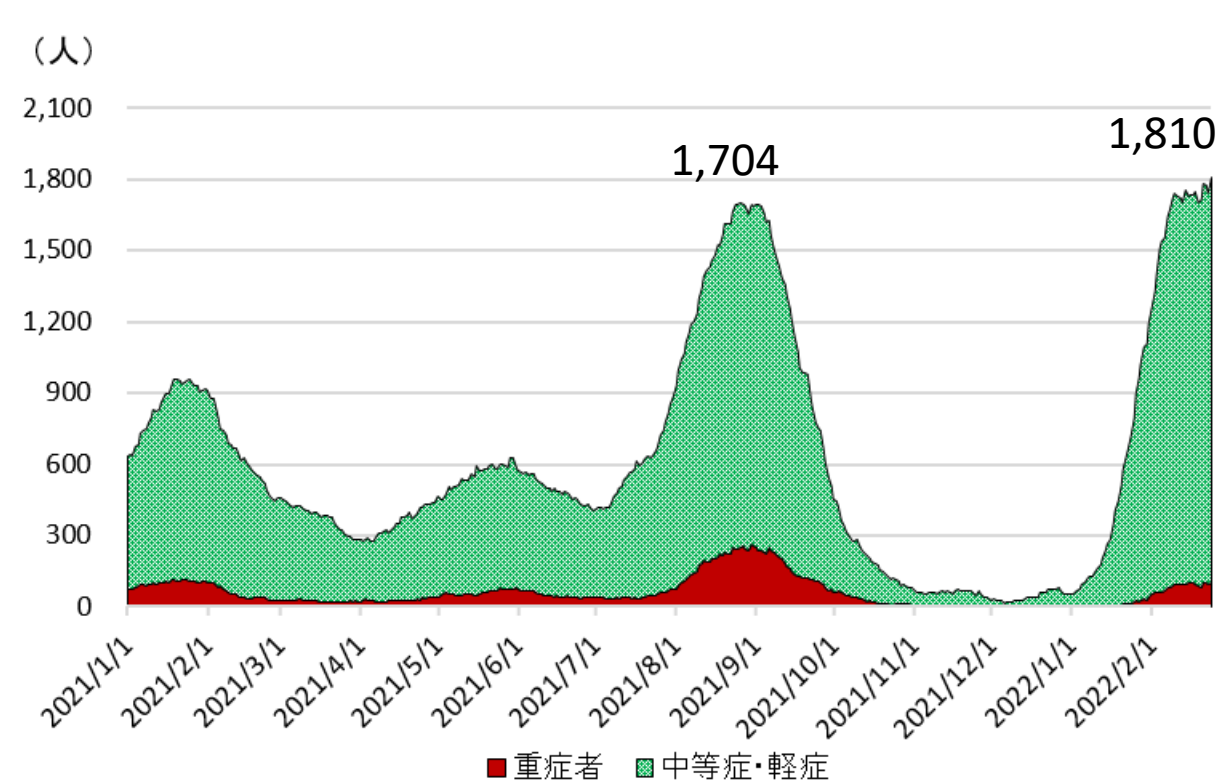
- 1月に新規入院した患者（フロー）は、2,256人であった。
- 1日の最多の入院者数（ストック）は、第5波（8月）1,704人、第6波（2月）1,810人

■（グラフ5）新規入院者数の推移【フロー】



（フロー：各月に何人の入院者が新規発生したかを表す）

■（グラフ6）入院者数の推移【ストック】 令和4年2月24日現在

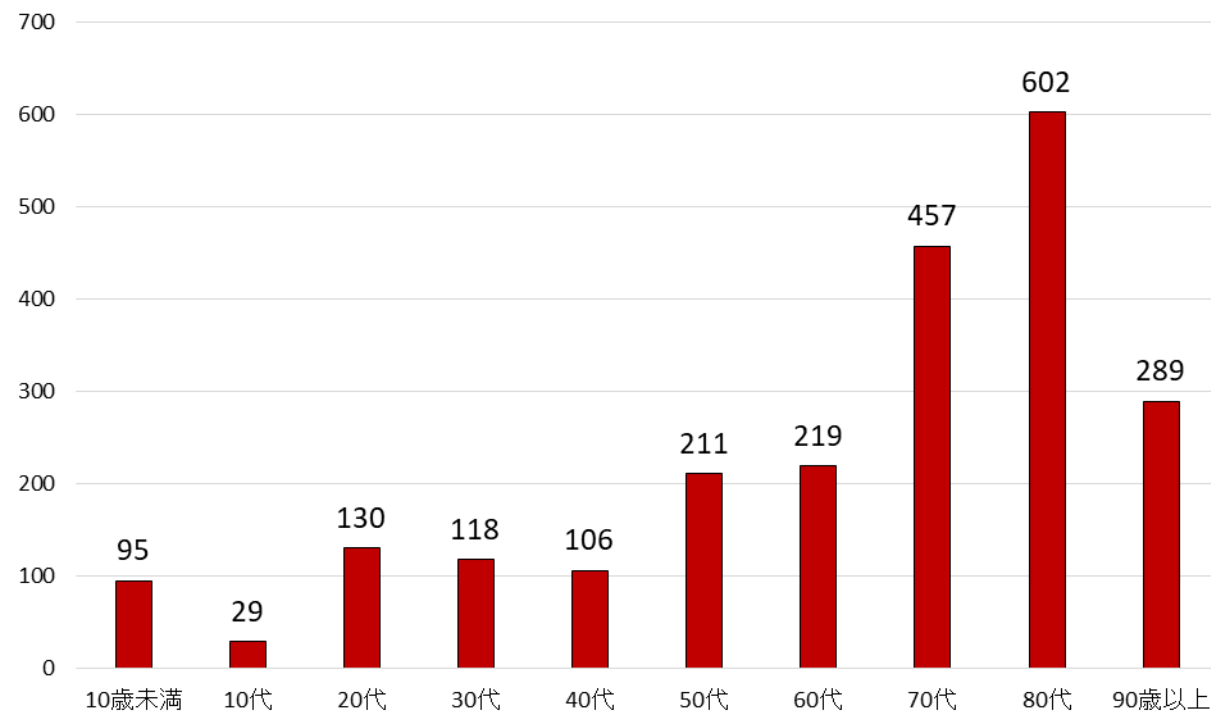


（ストック：その日に何人の入院者がいたかを表す）

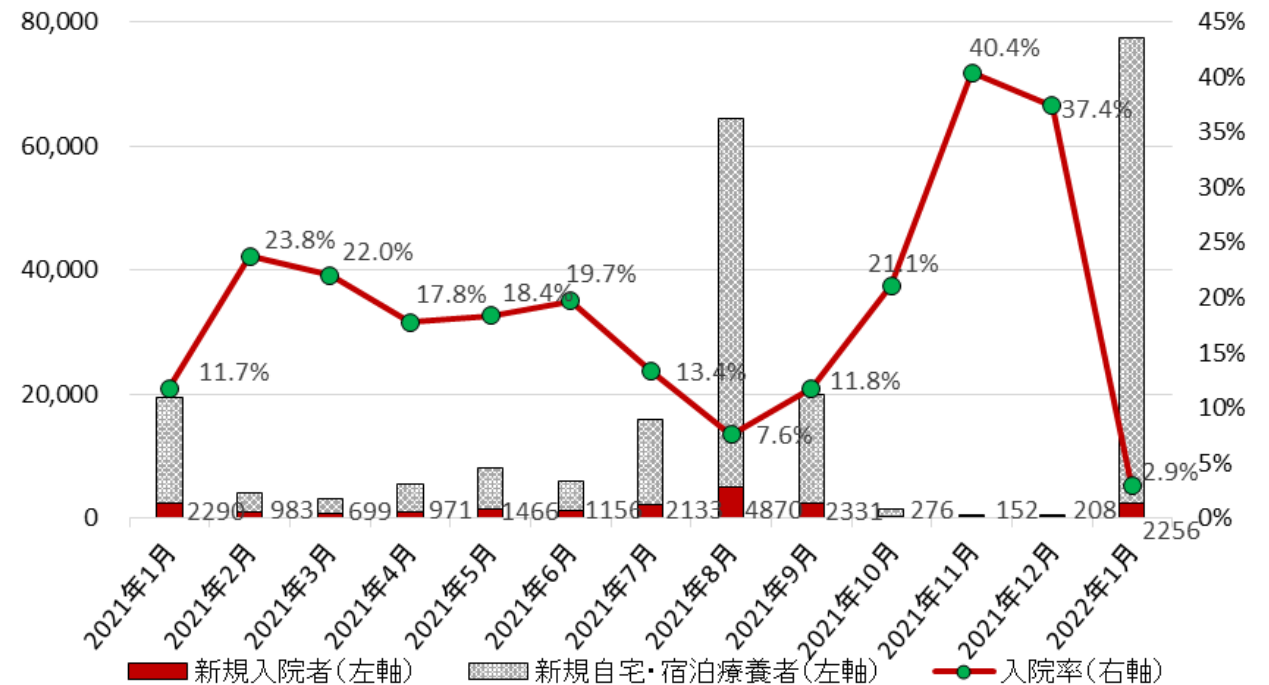
令和4年1月の年代別新規入院者数と新規入院率の推移

- 令和4年1月の新規入院者数は、70代、80代、90歳以上の数が多くなっている。
- 新規入院率は、令和4年1月には急激に低下し、過去最低となった。

■ (グラフ9) 年代別新規入院者数(実数)



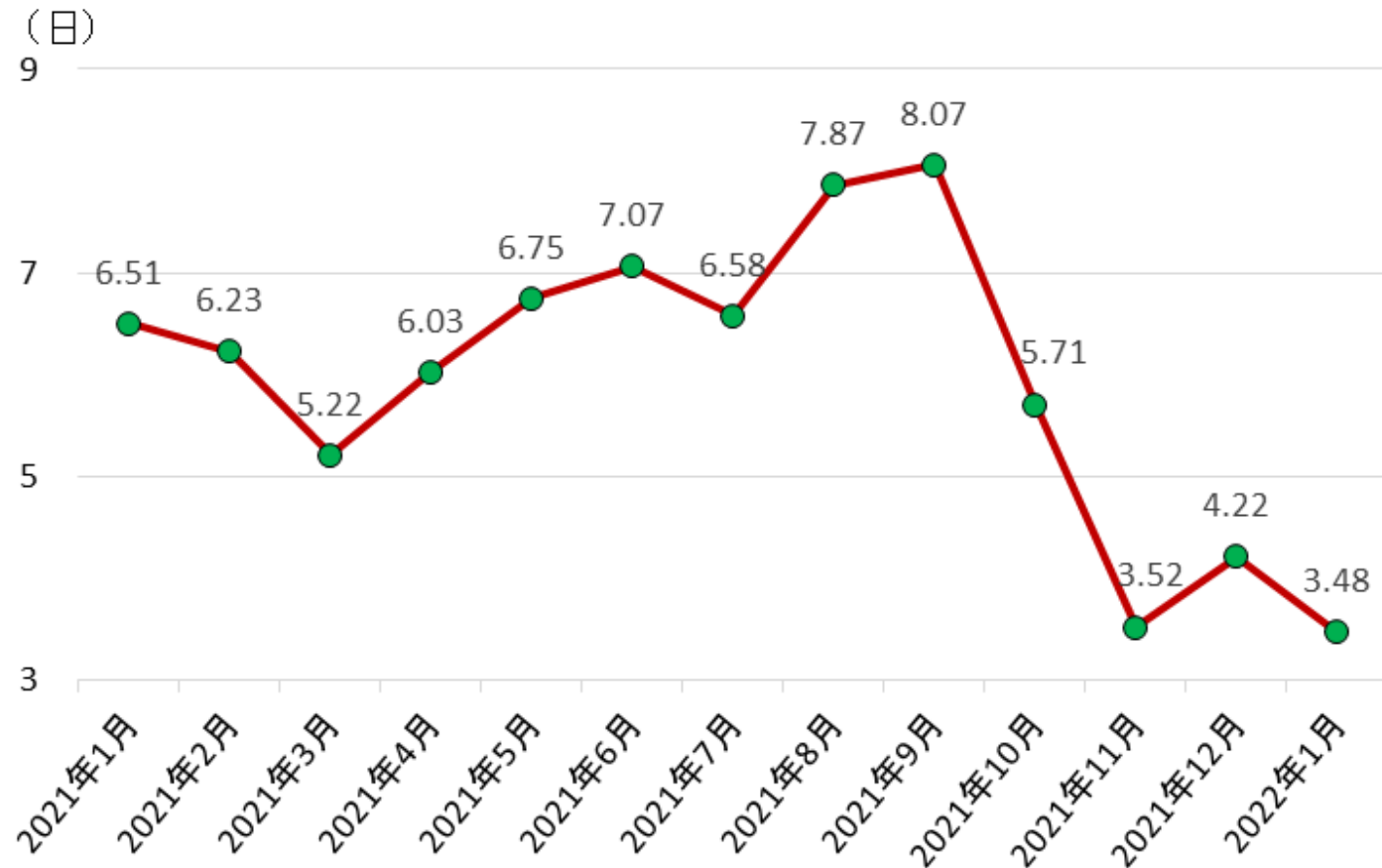
■ (グラフ10) 入院率の推移



新規入院率 = 当月の新規入院者数 / 当月の新規発生患者数

○ 発症から入院までの平均日数は、10月以降、減少傾向にあり、令和4年1月は過去最低となった。

■ (グラフ16) 発症から入院までの平均日数の推移

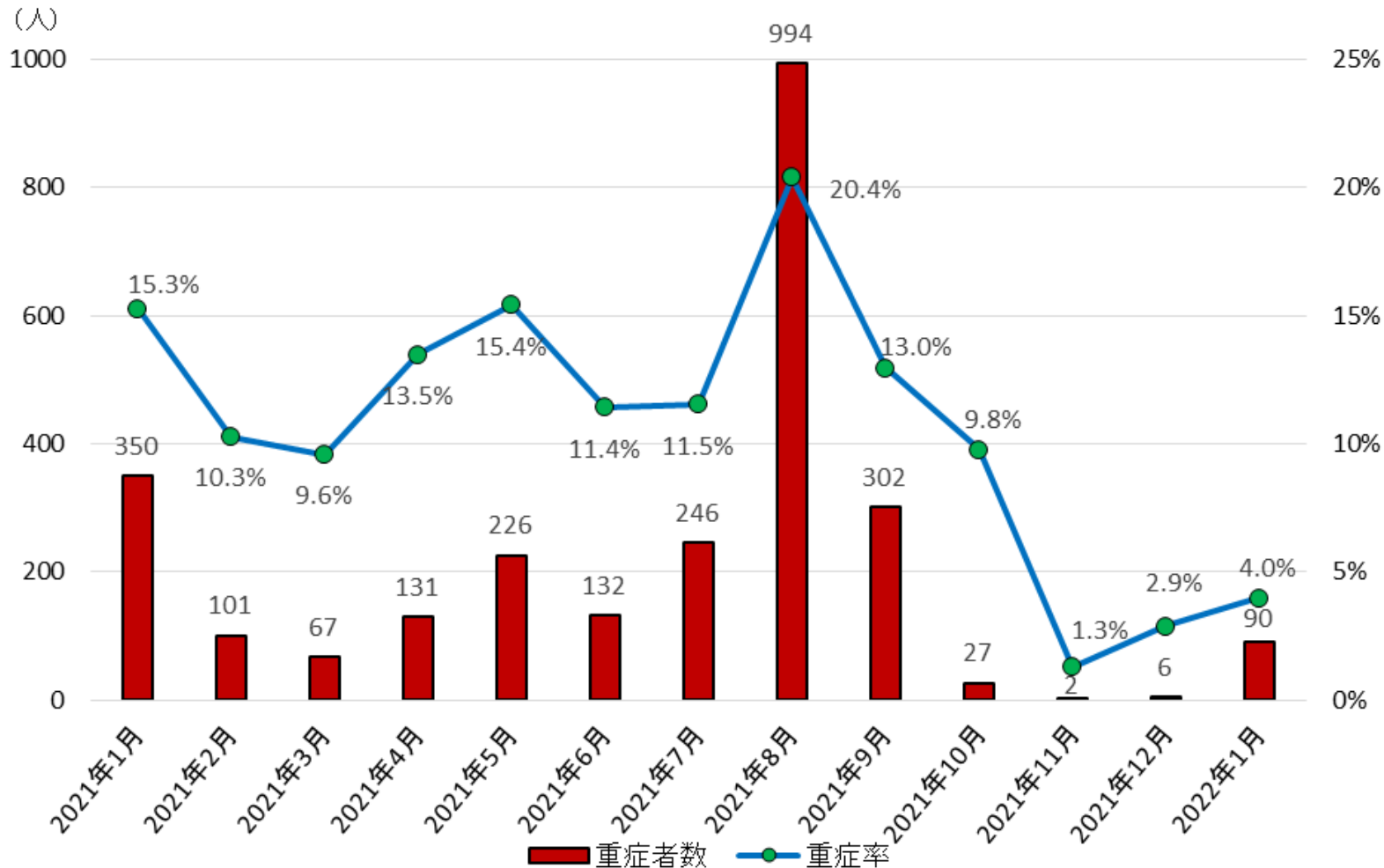


■ (表4) 発症から入院までの平均日数の推移

月	発症から入院までの平均日数	前月からの増減
2021年1月	6.51	
2021年2月	6.23	-0.28
2021年3月	5.22	-1.01
2021年4月	6.03	0.81
2021年5月	6.75	0.72
2021年6月	7.07	0.31
2021年7月	6.58	-0.49
2021年8月	7.87	1.29
2021年9月	8.07	0.20
2021年10月	5.71	-2.36
2021年11月	3.52	-2.19
2021年12月	4.22	0.70
2022年1月	3.48	-0.74

○ 重症者数・重症率ともに、9月以降、減少傾向にあったが、12月以降、上昇傾向に転じた。

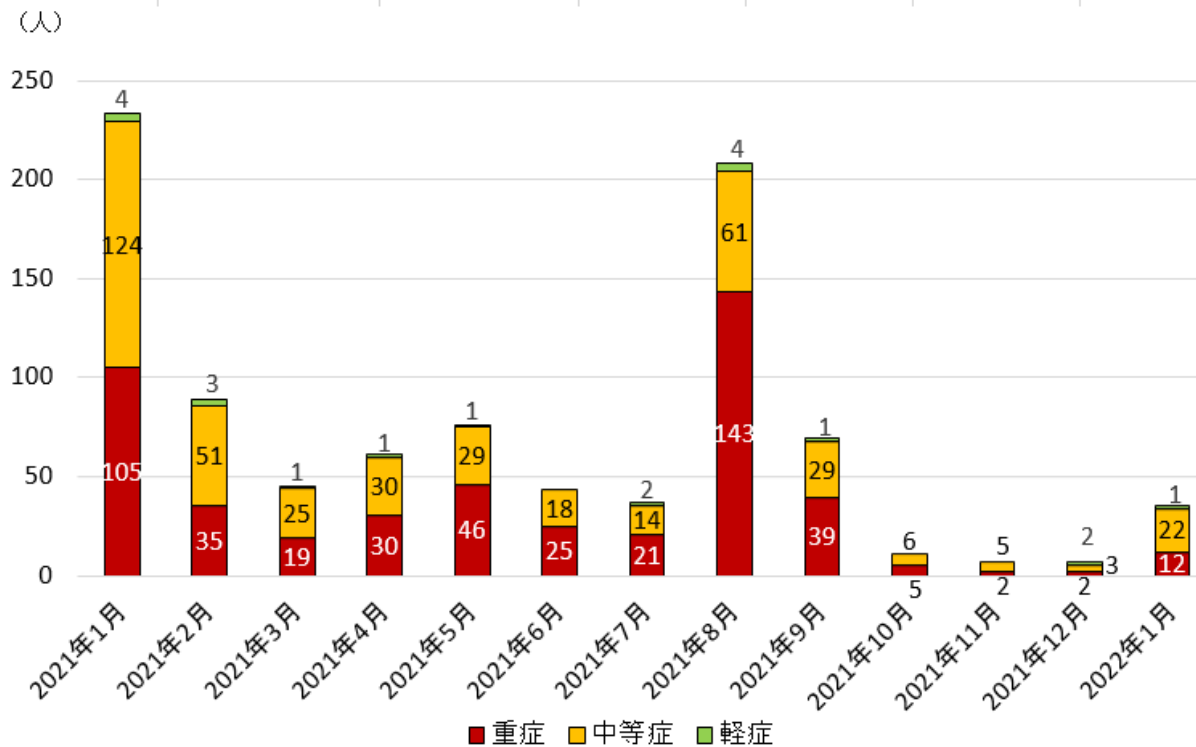
■ (グラフ17) 重症者数と重症率の推移



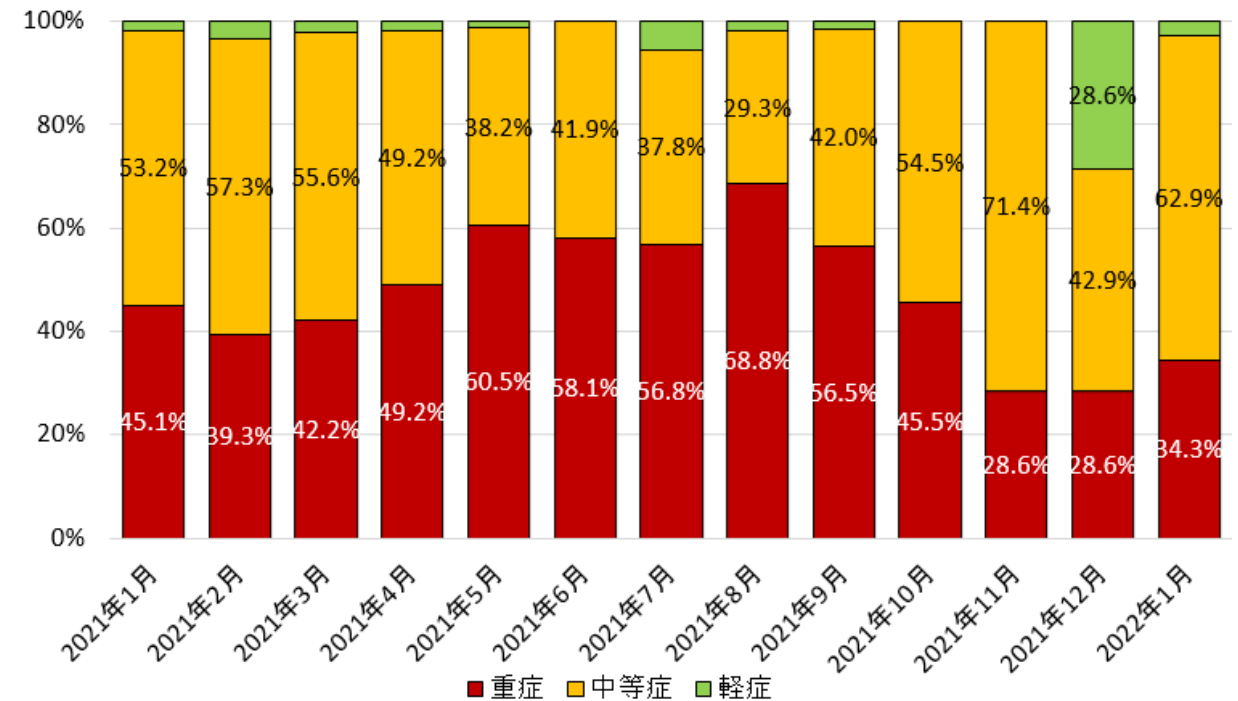
(注) 重症率は、当月に入院した患者のうち、重症となった人の割合を示す。

- 死亡者の重症度では、10月以降は、中等症が占める割合が最も高くなっている。
- ※ 重症度は、最も悪化した際の重症度を示す。

■ (グラフ26) 死亡者の重症度の推移(実数)

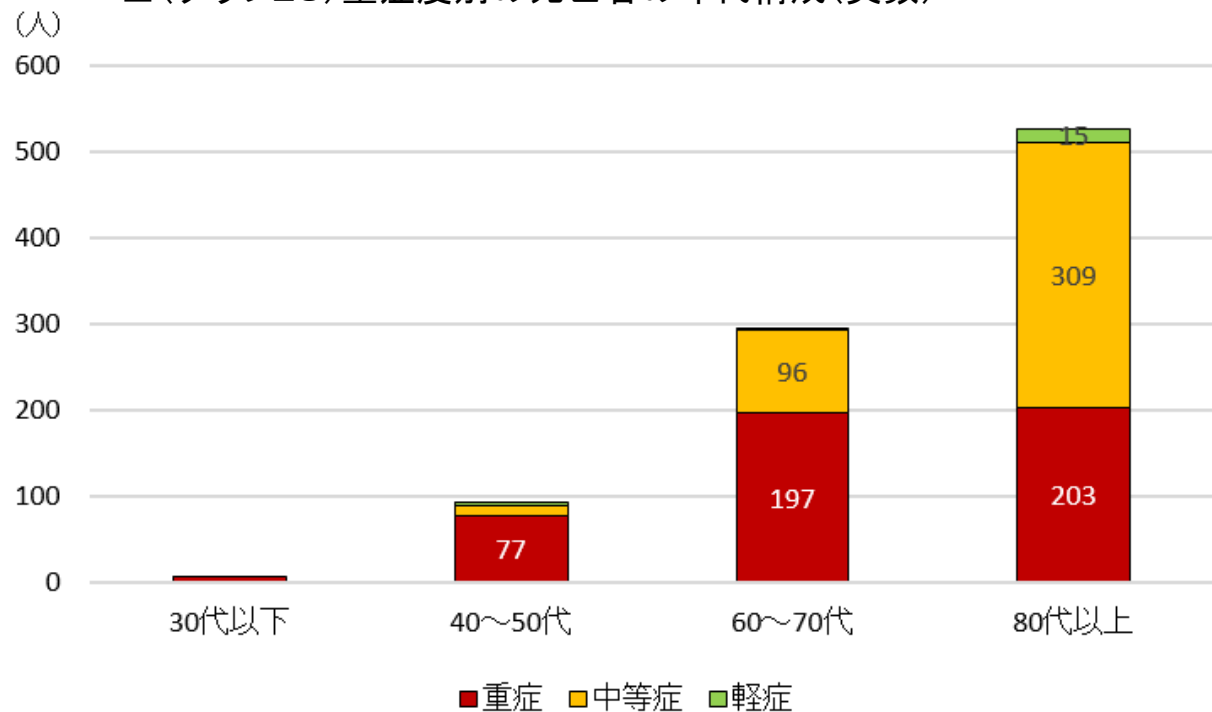


■ (グラフ27) 死亡者の重症度の推移(割合)

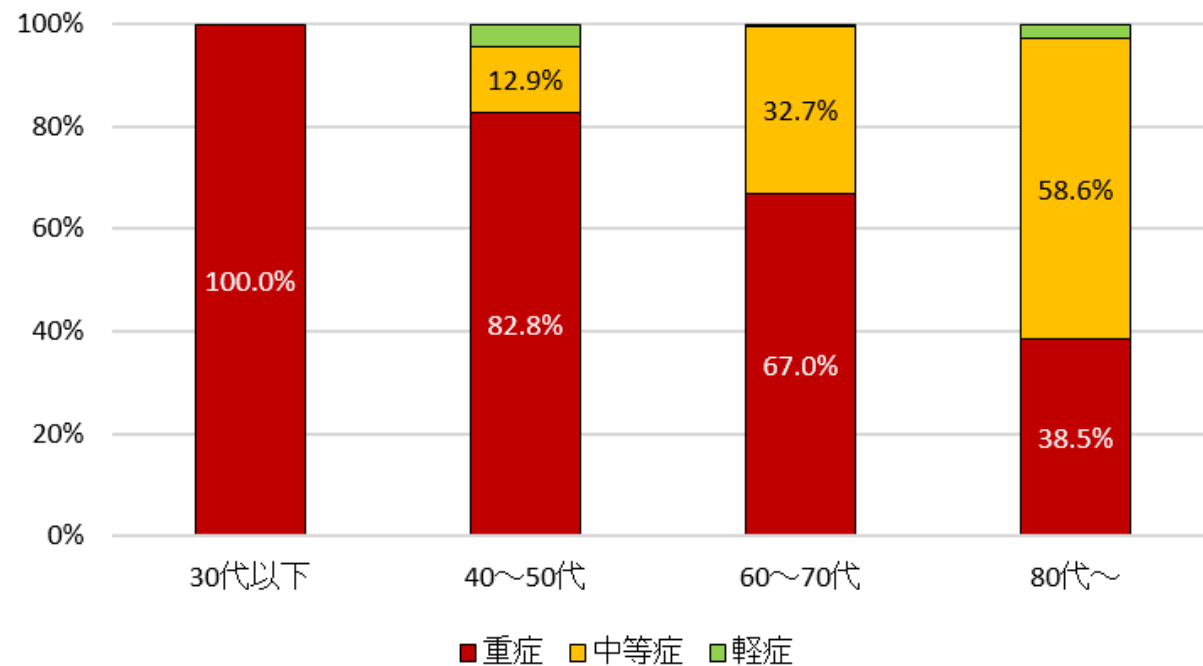


死亡者の重症度

■ (グラフ28) 重症度別の死亡者の年代構成(実数)



■ (グラフ29) 重症度別の死亡者の年代構成(割合)





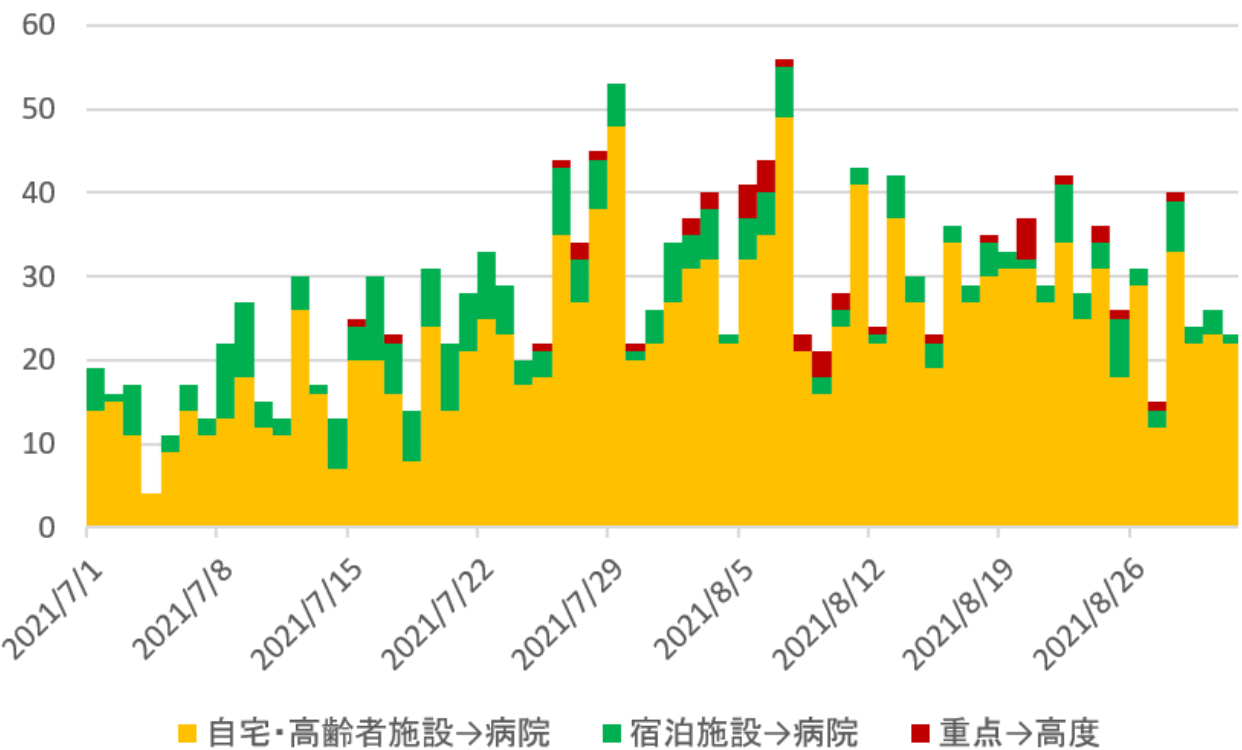
搬送調整報告（上り）

神奈川県 医療危機対策本部室
災害医療グループ 搬送調整班2022年3月2日

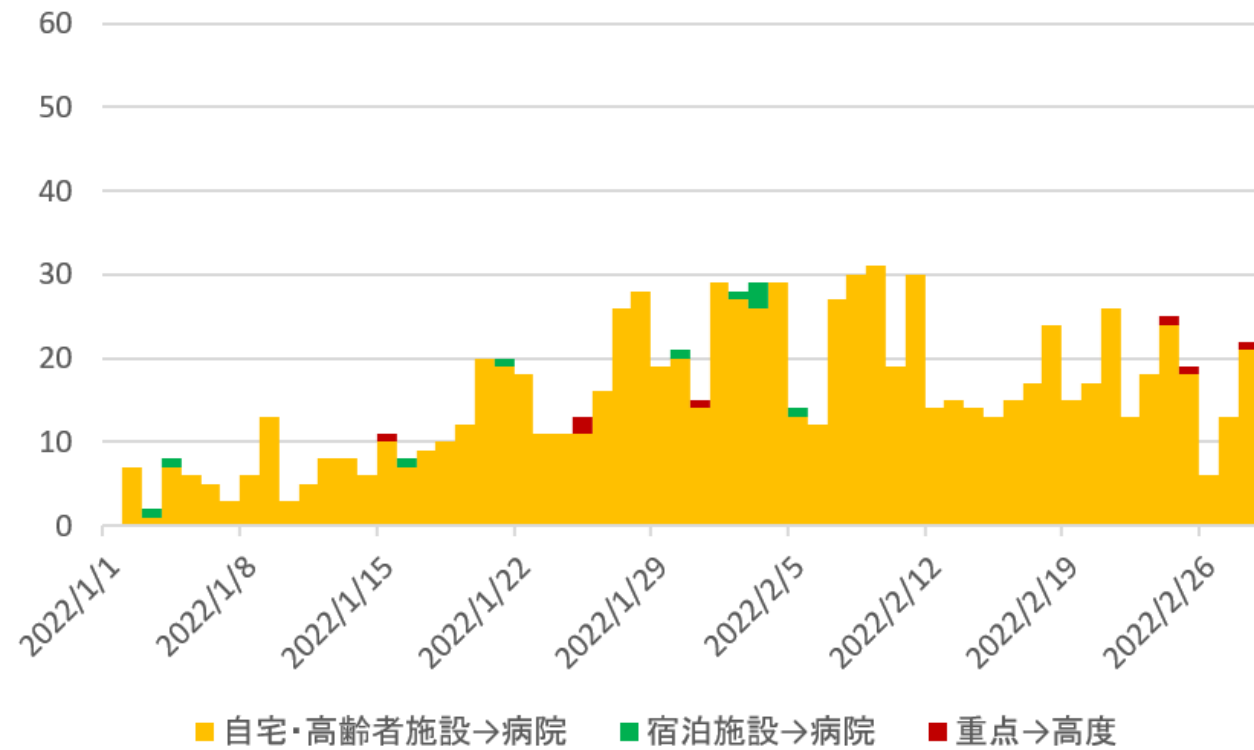
1. 上り搬送件数の比較(第5波・第6波)

○ いわゆる上り搬送(自宅・高齢者施設・宿泊施設→病院、重点・協力→高度)の件数は、昨夏の第5波のほうが件数としては多かった。

◇第5波の上り搬送件数



◇第6波の上り搬送件数

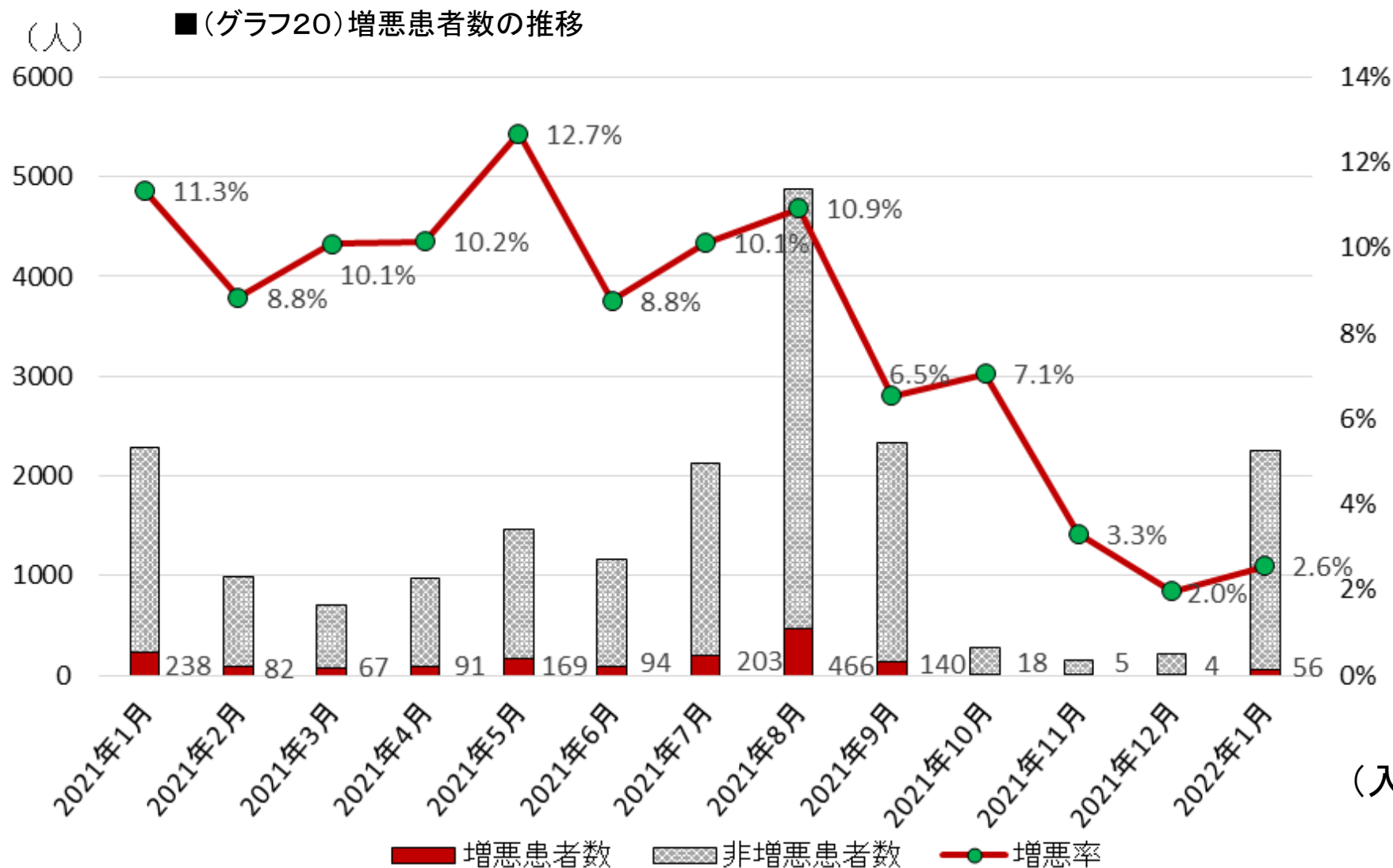


(出典)県資料

2. 増悪患者数・増悪率

(増悪率 = 増悪患者数 / (入院患者数 - 入院時重症患者数))

○ 増悪率は9月以降、低下傾向にある。



3. 搬送調整班スタッフへの聞き取り

- 要請件数は、先週末から、わずかに減ってきた印象
- それでも、まだ病床は不足。各勤で5人程が調整できず。
- 空床数と当日受入可能数に乖離（介護等で人手が必要？）
- 患者像：ほぼ80歳以上で高齢者救急の縮図
 1. 発熱等による体力低下、ADL低下、食事困難
 2. 他疾患の合併例が多い(コロナとしては軽症・無症状)

心不全

誤嚥性肺炎

骨折 特に、大腿骨近位部骨折、腰椎圧迫骨折

- 2月だけで27件の搬送調整の要請
 - うち13件が搬送調整(しかし、ほぼ骨折の手術・治療は不可の条件)
 - うち14件は搬送調整できず、そのままステイ(病院や施設)
- 高齢、併存疾患等のため、早期手術の適応になりににくく、保存治療多い
- 早期手術が必要と判断される例も、搬送先が見つかりにくい
- 手術をした後に、コロナ肺炎が増悪しないかと懸念



後方搬送報告

神奈川県 医療危機対策本部室
災害医療グループ 搬送調整班（後方搬送支援チーム）
2022年3月2日

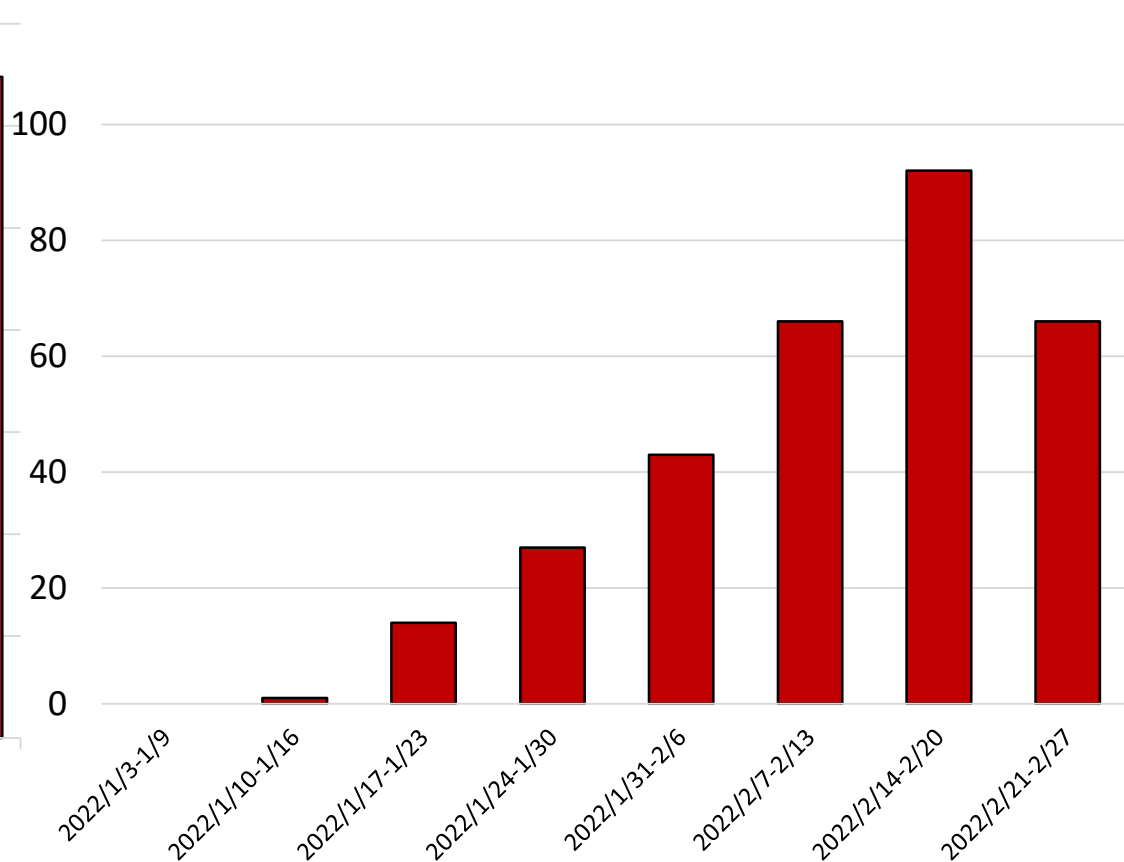
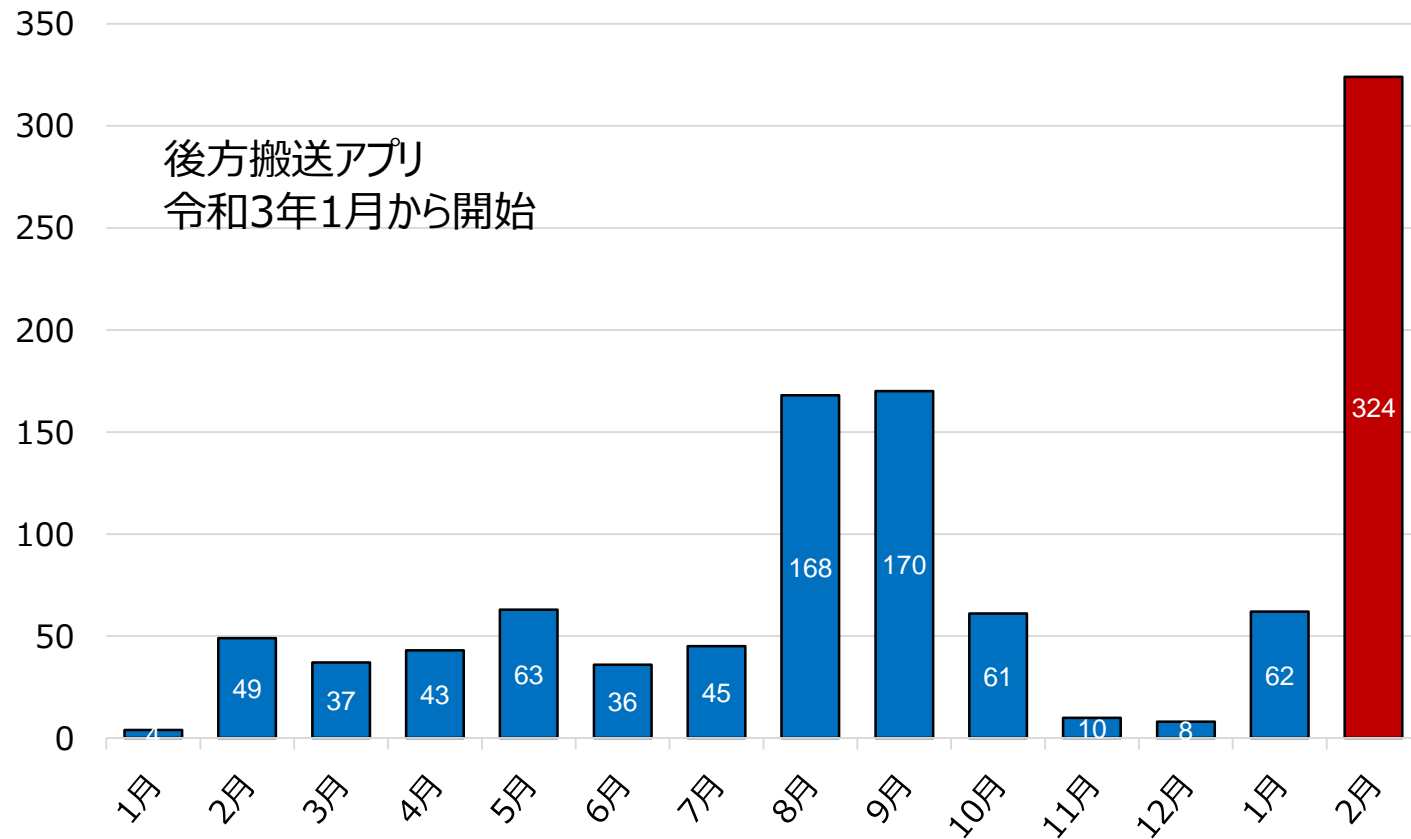
1. 後方搬送アプリ入力件数

- 県への後方搬送依頼件数は、2月に過去最大を更新した。
- 週別では、1月中旬から増加傾向にある。

(件)

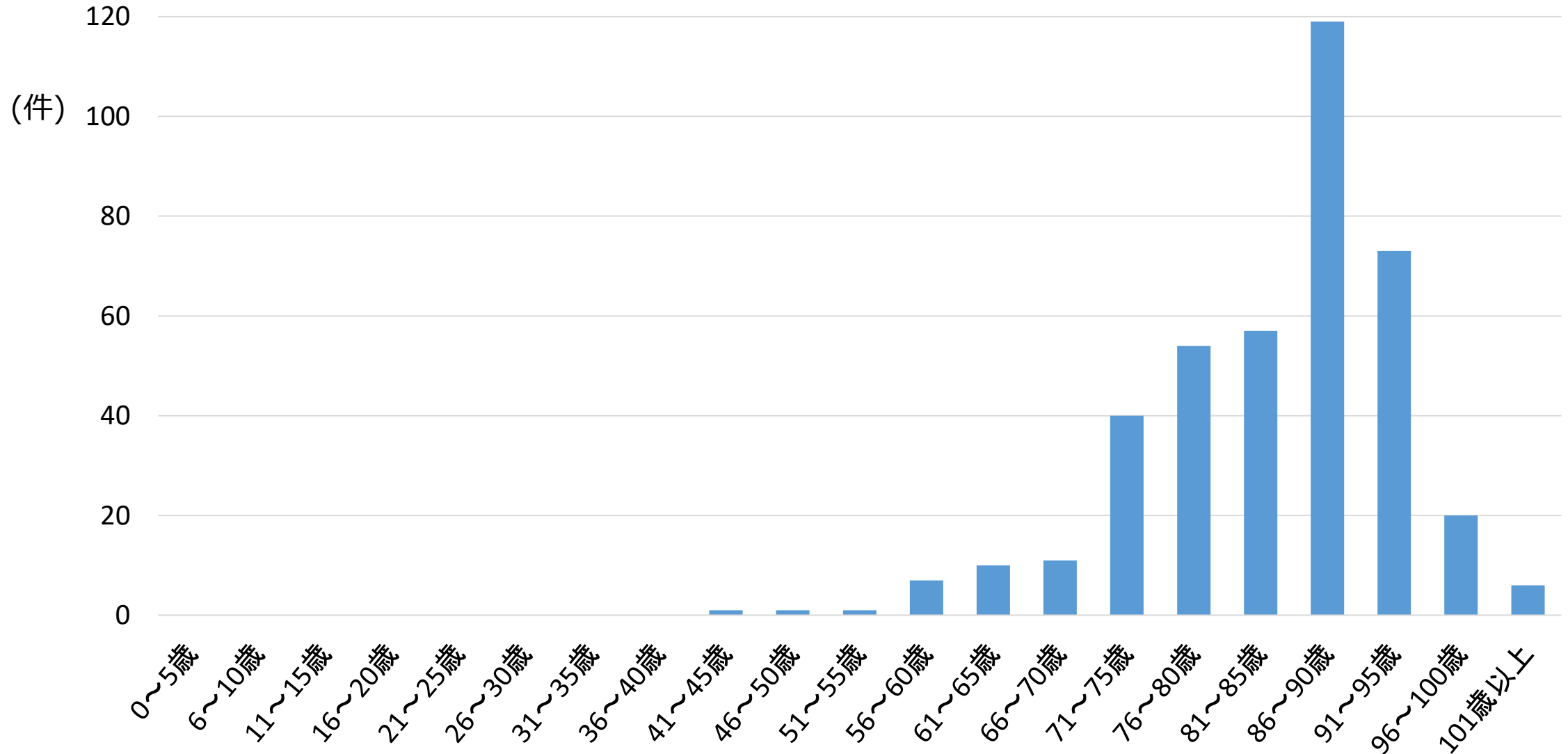
◇ 県への後方搬送依頼件数 (月別)

◇ 令和4年1月以降の後方搬送依頼件数 (週別)



2. 1～2月の年齢別件数

○ 令和4年1月～2月の約400件の後方搬送事例では、90%以上が71歳以上、平均年齢は84歳だった。

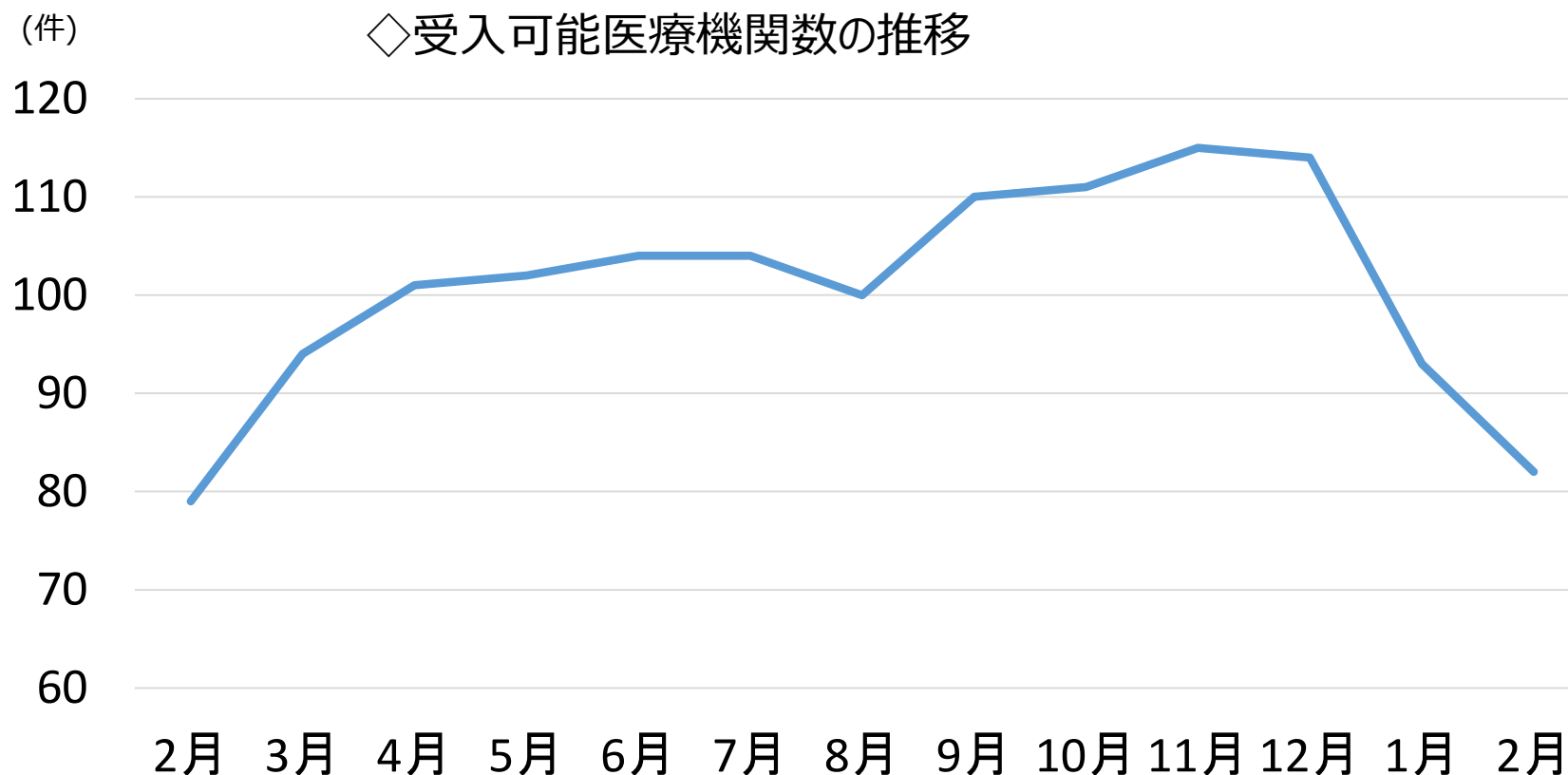


3. 受入可能医療機関数

○ 全後方搬送病院(協力③)139病院のうち、2月は82病院(横浜は20病院程度)のみが受入可能と、受入可能病院が急激に低下した。理由としては、**後方搬送医療機関でのクラスター発生**による影響が大きいと考えられる。

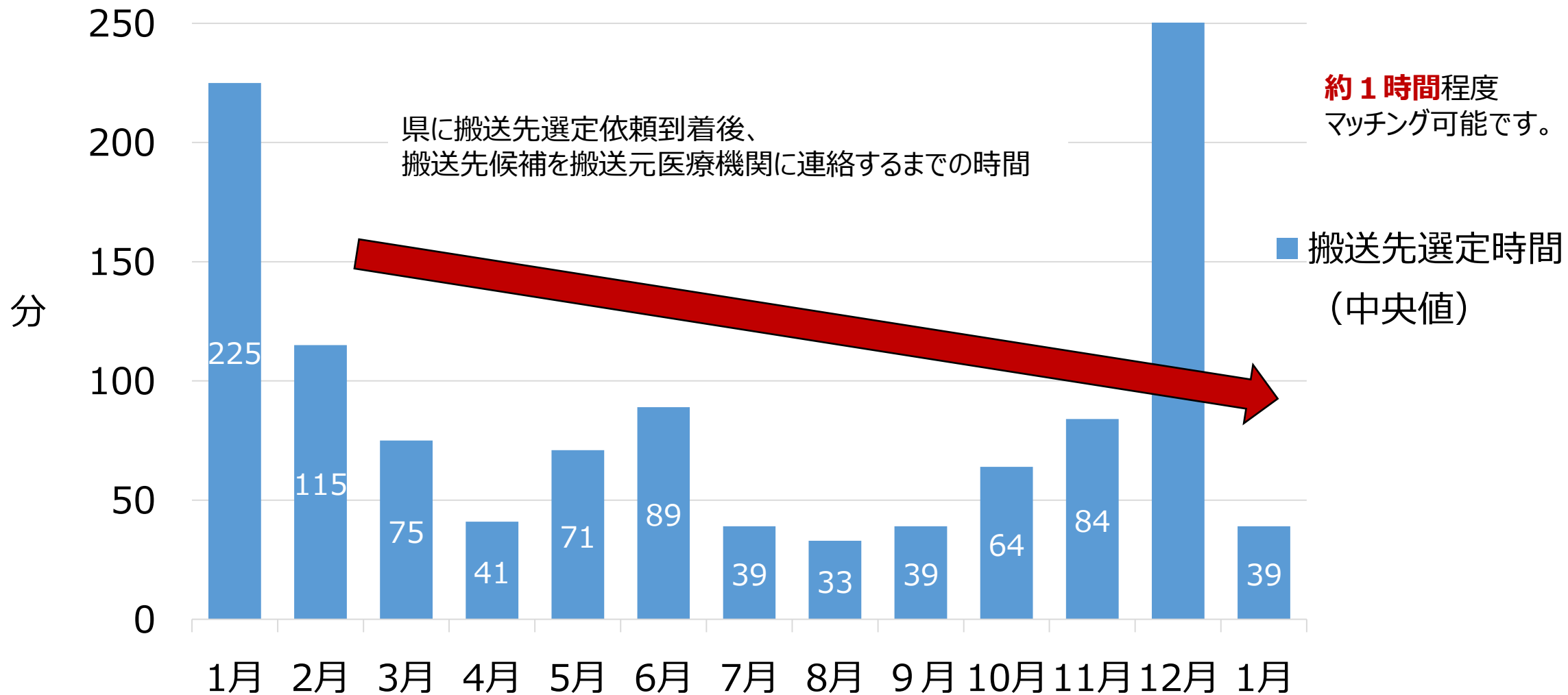
後方搬送は、COVID-19受入病院の病床回転率の向上に大きく寄与しています。

後方搬送受病院でのクラスター発生時でも、可能な限り業務を継続し、閉鎖する場合でも病棟単位とするなど、影響が最小限となるようご協力をお願いします。



4. 県でのマッチングに要する時間

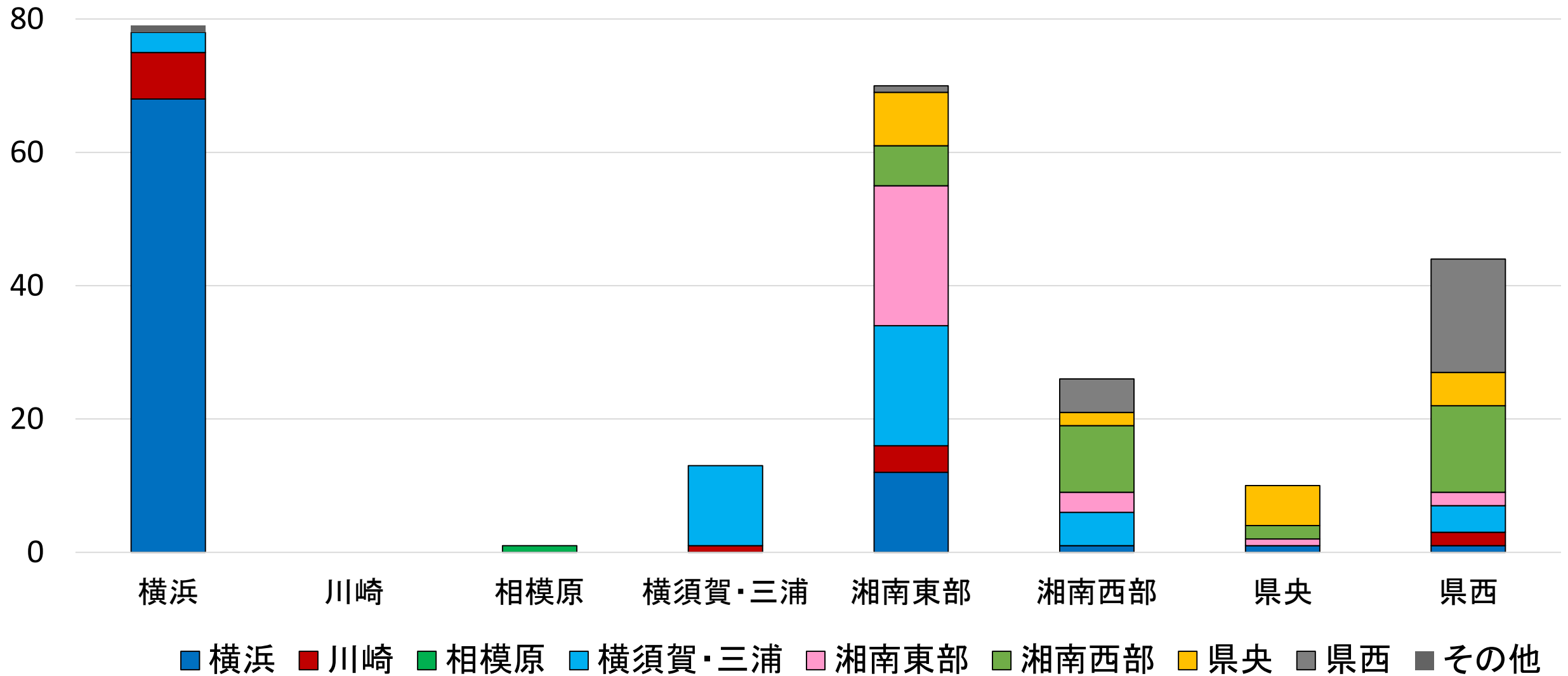
・後方支援病院選定時間（中央値）



5. マッチング後の搬送待機者数

- 現在、**マッチング後の搬送待機者数が106人**に上っており、搬送日程さえ決まれば、即時に同数のCOVID-19病床が空く状況です。
- 待機者の20～30%が、再調整になっています。
- 県の車両手配は、平日の調整が必要ですが、**搬送自体は土日も可能**です。
- **土日の受入開始や後方搬送の受入時間の拡大**を含め、1日でも**早い受入れにご協力**お願いします。

6. 二次医療圏ごとの搬送先医療圏



対象期間：令和4年1月から2月

7. 後方搬送調整チームへの聞き取り

- 要請件数は、まだまだ増えそう。3月が勝負。
- マッチングした後の搬送待機者が増えている。 ⇒ 1日も早く転院を
- リハビリ(理学療法、機能訓練、嚥下訓練)の必要な依頼が多い。
 - ⇒ 特に嚥下訓練の希望多い。飲水からの訓練スタート事例多い
 - ⇒ 回復期リハビリテーション病棟等での受入の検討を
- 看取りまでお願いしたいという依頼が多い。
 - ⇒ 次の次の病院・施設への転院調整は、転院後の病院でお願いします。
- 入院費の支払いができないため、マッチング不成立になるケースがある。
 - ⇒ 転院後は自己負担が急に発生。生活保護、個室差額代等で障壁。